

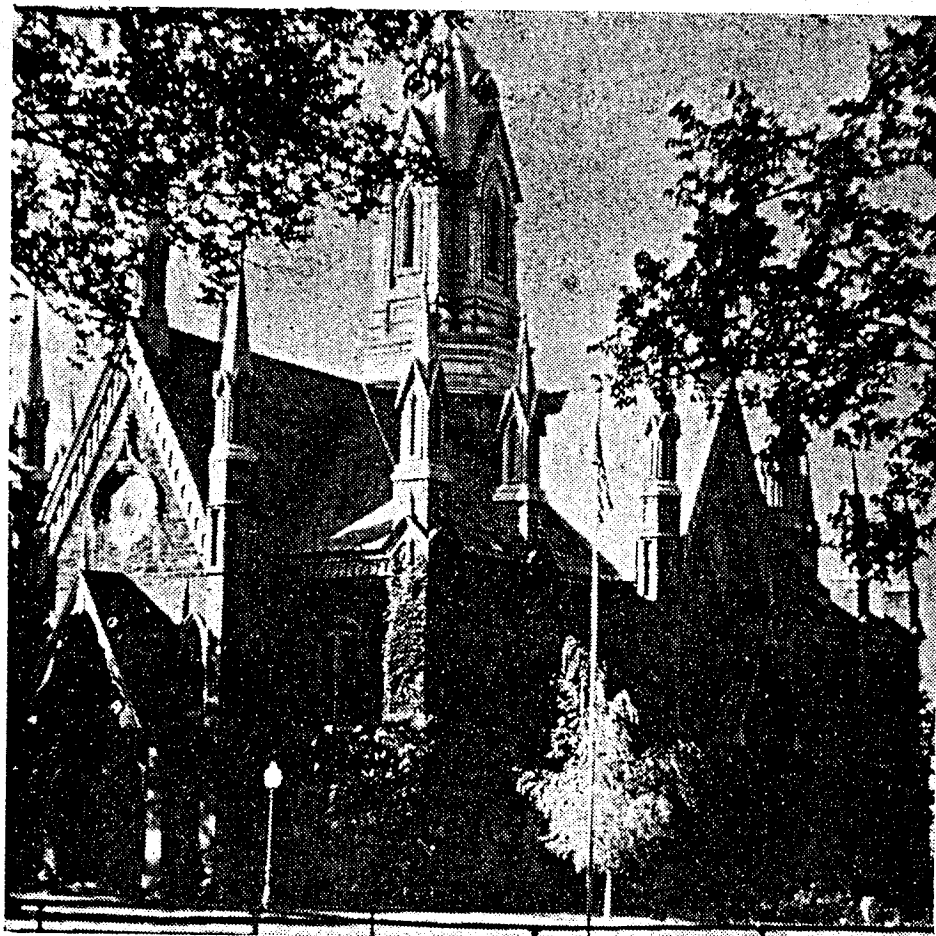
道 徒 の 聖



1959

6月号

末日聖徒イエス・キリスト教会



ソルト・レーク
 テンプル・
 スクエア
 アッセンブリ・
 ホール

ドン・C・ランドバーグ撮影

聖徒の道

目次 一九五九年六月号

【予言者のことば】

わが教会の青年へ……大管長 デビッド・O・マッケイ……2

【伝道部長メッセージ】

主の御教えを実行して……ポール・C・
 隣人愛に徹しましょう……アンドラス……4

生命の鍛錬……エルドレッド・G・スミス……12

「復活の法則」(モルモンの教義)……佐藤竜猪……6

【極東に於けるモルモン】

私の改宗……鈴木吾郎……9

私の体験……上野山研次郎……10

今月の出来事

「ジョセフ・スミスの殉教」……15

マーク・E・ピーターソン……リチャード・L・エヴァンス……19

マーク・E・ピーターソン長老夫妻を迎えて……23

特集記事

回復された福音……マーク・E・ピーターソン……28

貞潔……マーク・E・ピーターソン……30

「系図のページ」

西中央地方部大会に参加して……渡部正雄……35

神殿献堂式の祈禱「ソルト・レーク神殿」(四)……36

伝道本部より……38

モルモン経物語(二〇)……39

予画者のことは

わが教会の青年へ

大管長 デビッド・O・マッケイ

(わ)れわれは今危険な時代に住んでいるが、これは不純物を燃やし尽して純金を生ずる熱火の炉として、現代の青年である君たちのためにあるのかも知れないと考えようではないか。今日青年を必要としている指導者の地位は、偶然の機会によって達するものでなくまた恩恵によって育成されるものでもない。それは注意深い準備すなわち次に挙げる四種の誠実が絶えず満ちあふれていなければならない準備を必要としているのである。

自己に対する誠実。これは強い肉体の力と若々しい活力を保存することによって得られる。

両親に対する誠実。われわれが両親に負うている恩義は一つの方法以外を以てしては返すことができない。その方法とはすなわち、両親の理想に劣らないように努力して年とった両親を喜ばせ、またわれわれが身を純潔健康に保っていることを見る前に世を去った両親に満足を与えることである。

国家に対する誠実。或る偉大な作家はかつて「国家の運命は、いついかなる時に於いても、その国の青年それも二十五才以下の青年の所信によって定まる」と言った。

神と真理とに対する誠実。平等と兄弟愛とを信ずるわれわれの信念はクリス

チャンが先祖から受けついだものであるが、クリスチャンとしての信念が忘れられるときにこれらは姿を消してしまふ。われわれはこの世に誰一人要らない者はないこと、またあらゆる人は独特であって彼自身の生活と、社会と全世界の生活とを善くも悪くもする重大な選択から成る人生を有っていることを悟るよう人類を教化しなくてはならない。

以上四つの誠実を大事に育てるために、また以上四つの理想が広く行われるようにするために、世人は非のうちどころのない男女を必要とする。将来は君のものであって、選ぶままに善くも悪くもすることができぬ。

(青) 年と確信と勇氣の三つが一つに結び合うときには、われわれのこれから住む世界が如何なる種類であるかをおそらく決定することができる。最も賢明な時ではなくとも青年期は人生の中で最良の、また最も輝やかしい時期である。青年男女よ、将来は君たちを待っている。将来は君たちのものだ。

青年を指導する人々へ

(人) 生の危機に在る青年を導く助けとなることは、君たち成年に達した会員に与えられた最大最良の使命の一つである。青年男女の信頼を得ようとするならば、とるべき根本的の段階が三つある。

最初の段階は彼らと近づきになって彼らをよく知ることである。

第二の段階は個性の力である。われわれは、彼らに関心を持っていることを知らせなくてはならない。彼らに、われわれの心が触れていることを感じさせよ。暖い心だけが他人の胸の中に暖かさを燃え立たせることができる。若い人々はそのまわりに居る人々に疑いを抱くことが時々ある。他の青年はまた自分は要らないのだという考えを持つ。親切な手或いは愛情のこもった腕が信頼を目覚めさせる。われわれの経験は、個人的の交友が価値あることの形跡を充分に示している。

第三の段階は活動である。われわれが、あらゆる青年男女は一人のこらず何か仕事を持たねばならないということを知るまで、われわれは目の前にある偉大な目的を達しないにちがいない。青年は最初の十八年間に彼の時間の約六割を家庭と睡眠と学業に費やしていると見積られている。これによれば、青年の生活の四割はこれらの影響以外のところに残されている。私は青年を守護する者である君たちにたずねる。君たちは、青年が独りで放置しておかれていゝるその生活の四割の時間中に払う努力を指導するために何をしようとしているのか、と。わが国のあらゆる部分から青年期は犯罪の年であるという報告が来ている。十七才から二十五才までの青年層がわが国(十一頁につづく)



主の御教えを実行して

隣人愛に徹しましょう

ポール・C・アンドラス

あなたは物を気にし易い質ですか。

あなたは今までに人から感情を傷つけられたことがありますか。

あなたはこれまでに誰かと意見が合わなかったことがありますか。

か。あなたは誰かと議論口論又はけんかをしたことがありますか。

あなたは教会の或会員がしている或事に不満を持っていますか。

あなたは教会の或役員たちが物事を行っているやり方に賛成をしていますが。人に対して悪い感情を抱いてはいませんか。

私たちは人間でありますから、私たちの全部でなくても、大部分の者は今挙げた質問の皆でなくても大部分に対して全く正直にそうだと答えるにちがいありません。

それにもかかわらず、主は私共に隣人を愛しまた互いに愛せよと仰せになりました。また主は私共に相一致せよと仰せになりました。また主はもし私共が互いに愛せずまた相一致しないならば、私

共は主の弟子になることもできないし、また隣人たちも私共が主の弟子であることを知らないにちがいないとまで仰せになりました。

(ヨハネ伝十三の三十四・三十五、教義と聖約三十八・二十九)。しかし、私共の教会は神の真の教会であると主張して居ります、また教会の会員として私共は主イエ・スキリストに従う者たちであると主張して居りますから、私共は人間の弱さであるからと言って私共の表わす愛と一致の欠けたことと、先に述べた愛と一致の教えとを両立させることがどうしてできましょうか。主は自らこの問題に対する解答を「教義と聖約」第四十二章、八十八節から九十二節までの中ではっきりとお示しになりました。主はその八十八節でもし誰でも私共を害するならばひそかにその人の所へ行つて和解を求めるべきであると教えておいでになります。そうした後で和解を得ることができない時には、私共はその事を支部又はワード部の管理長老、言葉を換えて言うに支部長又は監督の注意を引くようにせよと

教えられています。主の御教えは宜しい。困ったことは、主の御教えに従う教会員の数があまりに少いことであります。あまりに多くの教会員は全く直接の関係がない他の会員に対して不平を抱いて居ります。そうすることによってこの人たちはどのみち問題を改善することなしに事態を一層悪化させるだけの不当な非難と蔭口とをかき立てています。主が私共に下さった御教えは、もし誰かがあなたを害するならば、すなわちもしあなたが誰かに反対しているなら、その人の所へ行って二人きりで懇談せよ、というのであります。もしも全教会員が主の下さったこの御教えに従うならば、すべての教会員の間に愛と一致があるでありましょう。人間は弱い者であるから会員たちの間に誤解と不一致とが自然に起るにちがいないことを主は認めておいでになりますから、このような誤解と不一致とが起るや否やすぐにこれらをすべて解決する方法をお示しになって居ります。当事者の所へ行って兄弟愛の精神で事を話し合うという簡単な手段は常に奇跡を行っています。感情を害したりまたは誤解をしたりする場合に、その問題は通常その場で解決されています。意見の不一致がある時には、あなたと意見の合わない人、特にその人が教会の役員ならその人のところへ行って自分の思うことを述べるのはあなたの義務であります。「自分の思うことを述べよ、それから協力をせよ」とは教会の一人一人にとって良い法式であります。実際、教会の会員一人一人は皆相談役でありますから教会の上の人々に助言をする義務があります。例えて言えば、もしもあなたがこれは役に立つかも知れぬと言う考えを持っているなら、または或教会役員の物事を行っているやり方が気に入らないなら、あなたはその教会役員のところへひそかに行つて、率直にしかしながら愛の精神

を以て思うところを言い表わすべきであります。しかし、あなたはまたその教会役員があなたの提案通りに決めないかも知れぬということ認識しなくてはなりません。またその場合にあなたは、その役員の決定を全く支持する心がまえでなくてはなりません。各役員はその職務に関する義務を遂行するに当り啓示と導きとを受ける権利を所有して居ります。それで、あなたの提案と考えとをよく聞いてから、彼はそれらを注意深く祈りの心持ちでよく考えなくてはなりません。そして彼がこうすると決めた時には、もちろんその決定が教会の教えやこれまでに定まっている教会の方針に反しないなら、その決定があなたの提案と正反対であろうともその決定を遂行するに当って彼を固く支持するのがあなたの義務であります、そうすることによって、意見の相違があるにもかかわらず一致することができるのであります。どんな理由があるにせよ、これまでどの教会員、または教会員にせよ非教会員にせよ、どの人に対してでも悪感情を抱いている本伝道部の教会員の一人一人に向つて、私は今こそ主の御教えを実行すべき時であることを提案いたします。事態を良くするために何らの行動もとらないことは、その問題に直接関係のない人々とその事を論じ合うとはほとんど同じ位悪いことであります。怨みを抱いたり悪感情を持つていたりすることは、他の誰よりもこのような心持ちを持つている人に確かに多くの害を与えます。私共の間に意見の相違がないようなふりをするのを止めて、主がなさいます通り私たちの間には意見の相違があることを認めましょう。また私共はすべての誤解と不一致と悪感情とを除くために主がおきめになった行動をとるようにいたしましょう。また私共の隣人が私共を本当の主の弟子たちであると認め、またこの教会を本当の神の教会であると認めるように互いに愛し互いに一致しようではありませんか。

「復活の法則」

佐藤 龍 猪

(東中央地方部評議員)

進歩するためにはこの世に生を受けることが大切であると同じように死ぬことが大切である。

一、万人の復活

今までこの地球上に生れて来て死んでいゝる者は一人のこらず復活するはずである。復活は死が万人に確実であると同じように万人にとって確実なことである。この地球上に死をもたらししたのは人類の始祖であるアダム一人の責任であるから、神は死をこの世に導き入れた責任のない者にそれに対する責任を負わせたまわらない。人の霊は永遠なものであるから、この死すべき肉体に宿る前から存在していたものであり、またこの世の生活の終わった後も存在しつづけるものである。いつくしみ深い父なる神はその愛と恵みと正義とによって、死なねばならぬ肉体をもったすべての神の子らが再び

生きるように備えをなしたもうた。贖い主イエス・キリストは死を征服するためにこの世に來りたもうたのであるから、もしもこの世に生れて來た者が一人でも復活することができないなら、それがどのような大惡人であつてもキリストが死にうち勝ちたもうたとは言えない。パウロは「すべての人アダムによりて死ぬるごとく、すべての人キリストによりて生くべし」(コリント前書十五〇二十二)と強く言つた。また主は自ら「汝らこれをあやしむな。墓にある者みな神の子の聲を聞きて出する時來らん。善をなしし者は生命によみがえり、惡を行ひし者は審きによみがえるべし」(ヨハネ伝五〇二十八・二十九)と仰せになった。贖い主イエス・キリストは万人のために

死にたもうたのであるから、一度肉体を受けてこの世に出た者はそれが善人でも惡人でも(滅亡の子であつてさへも)確かに復活をするはずである。アルマ書第十一章四十二節から四十四節を見ると、文字通りの万人の復活が明確に描写してある、すなわち「世には肉体の死と名づける死があるが、キリストの死によつて肉体の死の繩目が解かれあらゆる人がこの肉体の死から復活することが出来る。ここに於て靈と体とは再び合して完全な形となり、手足も骨の關節も私たちが今持っている本来の形に返り、私たちが今持っているような知識を保ち、明らかに自分が持っている一切の罪を思いめぐらしてそのまま神の御前に引き出されるのである。この復活はあらゆる人が全部受けるのであつて、老若男女の区別なく惡人と善人とを問はず奴隸と自由人とのへだてなく、一すじの髪の毛さえも失われずに、總身の何れの部分もあたかも今の世にあるようになり、完全の形にかえるのである。それから後で、その行いの善し惡しに應じて裁判を受けるため、一つの永遠の神会を成すお方、すなわち御子なるキリストと父なる神と聖靈との法廷に召される」

と。

二、あらゆる生物の復活

この地球上にあるあらゆる生物は、それが人間であろうと、動物であろうと、鳥であろうと、魚であろうと、その他のどのような生物であろうとことごとく死から贖われるにちがいない。禽獣その他の生物はわれわれと同じように、この世へ入って来た死に対して責任がなく、また主なる神によって創られたものであるから死から贖われて永遠に存続することができる。伝道の書第三章十四節には「われ知るすべて神のなしたもうことは限りなく存せん。これは加うべきところなくこれは減らすべきところなし」と述べてある。あらゆる生物は人間と同じようにその中にある「霊」によって生かされている。主は予言者を通じて次のように仰せになった「人間の霊は人の身体象にして、また神の造りたまひしあらゆる獣およびその他の生物の霊も皆かくの如し」(教義と聖約七十七〇二)と。また「やがて終末は来り、天地は焼き尽されて過ぎ去り、新しき天と新しき地とあらん。すべて古きものは過ぎ去り、天地すらも、また

その中にあるすべてのものも、すなわち人獣、空の鳥、海の魚も万物ことごとく新しくならん。されど一筋の髪の毛、一粒の微塵といえども失われることなからん。それらのものは皆わが手によりて造られしものなればなり」(教義と聖約二十九〇二二三―二五五)と仰せになった。かくの如くあらゆる生物は死から贖われて復活し、創造の目的を満している被創造物はみな進歩の階段を昇って行くのである(信証講義第二十一章)。

三、地球の復活

地球は生きている。はるかな大昔に創造されて以来、人間の成長に似た歴史をたどって来た地球は、やがて死に類似した変化を受けなければならない。そして復活に比べられる方法で新生するはずである。多くの聖句に酷熱によって熔ける元素、焼き尽くされて過ぎ行く地球などと言ってある言葉は死を暗示している。そして、新しい地球、本当に更新された新生の地球は復活した生物に比べてもよいであろう(信証講義第二十一章)。教義と聖約第八十八章二十五節と二十六節には「またわれ誠に汝らに

告ぐ、地は日の栄の王国の律法に従えり。そはその創られたる目的を満して律法を犯すことなければなり。この故に地は聖くせられん。然り、地は死すべしといえども死よりまた生き、その生かす者の力と共に在れば、義しき者たちは地を受けつくべし」という主の御言葉が示されている。そして、その新生した地球の状態を述べて予言者ジョセフ・スミスは

「それ、この地球聖化したる不滅の状態となる時は水晶の如くなり、その上に住む人々にとりて一つのウリムとトミムとならん。これによりて、それより下位の王国あるいはすべて低位の王国に就けるよろずのことは、この地球の上に住む人々に明らかとなり、この地球はキリストのものとなるべし」(教義と聖約百三十〇九、七十七〇一、黙示録四〇六)と述べている。

四、第一の復活と第二の復活

イエス・キリストは「善をなしし者は生命によみがえり、悪を行ひし者は審きによみがえるべし」(ヨハネ伝五〇二十九)と仰せになった。主はアダム個人の咎に対してその他の人間に罰を与えたまわれない。万

人はイエス・キリストの贖罪によって死より贖われ、各人ごとく復活することができ、永遠の生命や救いを無条件に受けることはできない。それらは各個人の忠実と努力と忍耐と信仰と神の誠命を守ることによって与えられる。主は千八百三十年の九月、予言者ジョセフ・スミスに啓示を下して「かくしてわれ主なる神は、また人に救いを得べき試みの世を定めたり。すなわち信ずる者は皆その肉体の死よりよみがえりて不死不滅に入り永遠の生命を得ためなり。されど信ぜざる者はよみがえりて不死不滅となり永遠に神の御前より断ち切られん。そは、彼ら悔い改めざる故に霊の墮落より贖われ得ざるなり」(教義と聖約二十九〇四十三・四十四)と仰せになった。万人の復活が二つに分けられることは聖書の方々に言っているが、それは第一(または最初)の復活と第二(または最後)の復活、或いは義しい人々の復活と義しくない人々の復活と言ってもよいであろう。広い意味での第一の復活はイエス・キリストの復活(本当の意味での最初の復活—コリント前書十五〇二十・二十三、使徒行伝二十六〇二十三、コロサイ書一〇十八、黙

示録一〇五参照)と、その直後に起った義人の復活(マタイ伝二十七〇五十二・五十三)と、現代に至るまでに主が特別の使命を与えて起らせたまうた復活(モロナイ、パプテスマのヨハネ、ペテロ、ヤコブ等の場合)と、キリストが再降臨したもう時に起る復活とを含む。然し、再臨の時に起る義しい人々の復活を指して通常第一の復活と言う。キリストが栄光を具えて再び来りたもう時に多くの墓はその中から死者を出し、それまで眠っていた義しい人々はまだ死なない多くの聖徒たちと共に雲の中にとり挙げられて主に会うにちがいないということとは聖典の中でとくにはっきりと言っている(テサロニケ前書四〇四—四十七教義と聖約四十五〇四十四・四十五、八十八〇九十五—九十八)。

黙示者ヨハネはこの贖われた人々の一団に就いて「幸福なるかな、聖なるかな、第一の復活にあずかる人。この人々に対して第二の死は権威を有たず、彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間王たるべし」(黙示録二十〇六)と記しているが、その前に「そのほかの死人は千年の終るまで生き返らざりき」と記して、

この祝福を受ける価値のない人々は次の復活まで待たねばならないことを明らかにした。

すなわち、キリストの再臨によって「福千年」が始まり、千年の間平和な楽しい時が続くが、この千年が終ると暫しの間サタンが解き放たれ、悪が再び地球へ戻ってくる。サタンの率いる軍勢と天使長ミカエルすなわち人類の始祖アダムの率いる軍勢との間に戦いが起り、結局サタンが征服される。そこで第二の復活が起って「福千年」の間地球に居れなかつた「第一の復活に洩れた死者」がよみがえって最後の審判を受けることになる。このとき、万人はその行為に従って審判を受けなければならない。それから終末が来て、地球は死に類似した本質的变化を受けてから復活と同じように新生し、日の栄の体を有つ人々の住処となるのである(ジョセフ・フィールディング・スミス長老著「救いの教義」第三巻六十六頁「英文」参照)。

今月号より「モルモンの教義」欄を掲載致しますから御期待下さい。

極東に於けるモルモン

私の改宗



鈴木 吾郎

(山形支部)

私の生れた家は仏教徒でしたので、子供の

ころは簡単なお経を誦んじて祖母などを喜ばせていたものです。それで自ずからものの見方や考え方も多分に仏教的でありました。だが信仰心から生れたものでなかったため、何時しか忘れ去ってしまいました。また教義についても年を経るに従って疑問が多くなり満足するものを得ることができませんでした。

こんなことで戦中戦後の混乱した世相にもまれ悲喜哀楽の巷を彷徨いながら焦りと不安の毎日を暮らしてきましたが、私の心の奥では何時も真理を求める火が燃え続けておりまし

た。でもその半面、社会悪に対する疑惑と反感が強い余り、ものごとを容易に受け入れない、信じようとしないうる頑固な心の持ち主となっておりました。

私の家内は一九五二年にこの教会の会員になつていたので、折にふれて教会のことや神様のことについて話かけてくることもあり、また朝目をさまして見ると、私の枕のそばに聖書やモルモン経典をそつとおいてあることがありました。それでも私はどうしたことがすなおにそれを受け入れることができませんでした。私の求めていた、私を救って下さる御言葉が、真理が、枕のそばまで運ばれていたのですが、頑迷な私はそれを悟り知ることができませんでした。

こんなことが幾度か幾年か続いた一九五六年十二月の末、ちょっとした胃痛で医者診察を受けたら、思いがけなくも、入院しなさいと言ふのです。その時は身の不幸を嘆きましたが、今思い浮かべ本当に幸いな機会であったことを神に感謝しております。

入院して幾日か経った時、家内が宣教師を案内して行つてよいかと、不安そうに電話で聞くのです、実はこれまで家内が私のために家庭集会をうけさすべく密に計画して宣教師をお呼びするのですが、その都度私はこっそり裏口から逃げ出してしまひ困らせていたからです。しかしこの時の気持は全く異つたものでした。久しく待った遠来の客を迎えるような本当に楽しいものでした。早速御足労を願つて、それから毎週二回家庭集会をしていただき、モルモン経典を幾回も読みました。そして度を重ねるにつれて暗雲が晴れて行くように私の心が開けて行く思いでした。知らずしらず涙がほほを流れていることが度々ありました。四十路を越えようとしてようやく真理を知り神の門に入ることができたのです。

このようにして、一九五七年三月三十一日雪で埋れた山寺の谷川でバプテスマを受ける

ことができました。

それから二年、私の家族四人がモルモン家族の榮を得て、心身ともに癒されて、善き木

私の体験



和歌山の片田舎で第二次大戦中、兄と弟とを失った私は同時に多年の職業（製氷工場）をも失うに至りました。

戦争中からゆれにゆれた経済生活が兄や弟の残した妻子や、私と妻の平和なさゝやかな生活を根底からくつがえしてしまいました。

「これからは裸で出直すよ。君や子供たちは、私が腕一本で幸福にしてみせるから兄や弟の妻や子供に工場を売った金は全部わけてやりたい」と云う私の一方的な宣言にも、工場や建物を失った苦しさにも、妻はちっと耐

に悪しき実のならないことを二人の子供に期待しながら、神の限りなき愛と慈みに感謝しながら希望に燃えて毎日を送っております。

上野山研次郎

（岡町支部第二副支部長）

えて黙って許して呉れました。

兄の妻と弟の妻に工場を売った金を二等分して頒け与えた私の手には何も残りませんでした。

生れて始めてサラリーマンとしてある食糧会社へ就職した私は、妻との約束を果たすために仕事にはげみましたが、戦後のインフレは新米の俸給生活者を決して楽しくはしてくれませんでした。

ともすれば崩れようとする生活——幼い三人の子供をかゝえて苦闘する妻の懸命な努力を見ながらも忙然自失したような私——その頃の誰でもがした経験にも拘わらず、のんびりと育った私は一たまりもなく打ち負かされ

て逆に妻によりかゝる様な日常がつづく上に自分で建てて永年住みなれた家が思いもよらない訴訟事件にまき込まれました。私の法律に関する無智と呑気さからその隙をねらった親族のわなでした。一時カッとなった私は文字通り血で血を洗う法廷での争いが始まりましたが、その内親類同志のみにくい争いが浅ましくなり問題の家を安く売り払って、妻と子供と共に故郷を出て大阪へ出て来ました。しかし都会は私の生活を一そうみぢめなものとし、幾度となく転々と居を移して、暗い希望のない生活が続きました。

これからどうなるのだろう、こんなことでいゝのだろうか。一体私たちは何のために生きていくのだろうか。——夜中にふと眼がさめた時、かたわらに眠っている妻や子供たちを眺めて、こんなつぶやきがよく頭の中を駆けめぐるいらだたしい日々が過ぎました。

豊中市へ住みついて五年、十二月十一日に宣教師ジョーンズ、ロー両長老の訪問を計らずも私は仕事場で、妻は家で同じ日に受け、始めてモルモンの教えを聞いて強く打たれるものがあり、妻は幼い時から組合教会へ長い間行ってキリスト教の教義についてはいくらか知っていましたが、宣教師の話を聞いてこ

の教えが本当ですと私に証詞しました。

教義の真実さは勿論深く私達の心をとらえました。特に宣教師たちが自費で伝道して

いるという真実そのものが私たち夫婦の胸を強く打ちました。若い

(私の子供位の年令)

彼らをこんなにまで働

かせるものは一体なん

だろう。氣候風土の違

いから来る生活の苦し

さ、言葉や文字の不自由

等あらゆる悪条件に

もかゝらず彼らをこ

んなにまで動かすもの

は何んだらう。これは

たゞ事ではない。想像

もつかない大きな力が

働いて居るにちがいない——これは神様以外

にない——と、この考

えが私の心を電氣の様

につらぬきました。

週に二回、四ヶ月の間妻と共に一夜も休まず勉強しました。私達が熱心になればなる程宣教師たちも真剣になつて教えてくれました

た。そして三月二十九日私たち夫婦は他の五人の婦人と共に箕面の清流でバプテスマを受けました。

その時の大きな感激をそのまま持ちつづけ

「俳句」

柿 若 葉

東京南 渡辺八重子

鏡台に むきて坐りぬ 春の風邪

春めけば 心ゆたかに 便り書く

水尾引いて ゆきしは何や 花あやめ

駅小さし ポプラ若葉に かこまれて

すく／＼と 吾子育ちたり 柿若葉

ましろなる 落花の径を 急ぎつゝ

つなぎある ポートに寄り来る 落花かな

貨車去れば もとの雪嶺 走るのみ

花桐に はるかなる日の 想いふと

て数々の御恵みを頂き昨年九月二十一日に、

永い間の念願が宣教師の骨折でかないまして、三人の子供を私のこの手でバプテスマを

この大きな御恵みが、すべてのこの世的な苦しみや悲しみをすっかり拭い去って今私の五人の家族は貧しいにも関わらず恵まれた日々を送って居ます。特に智恵の言葉を守ることによって以前の虚弱な体が健康に恵まれていますことを心から感謝して居ます。

末日聖徒イエス・キリスト教会は唯一の真の神の教会であることを心から証詞致します。

アーメン。

【予言者のことば】三頁よりつづく

犯罪者の圧倒的多数を占めているということである。

(主) はちょうどこのような状態を予想したもうたから、青年を不道德行為の荒地と宗教的なものに対する無関心から救い、神に対する不信心から救い、また不敬な行為から救う目的を以て教会の中にいろいろの組織を置き

たもうたと思える。

青年男女を非難することを止めよ。ただ彼らは何をしたいのか、また何をするかができるかを見出せ。それは彼らが仕事を始めるや否や、彼らは興味を覚えかけるからである「世の中には悪い草はない、また世の中には悪い人々もない。ただ悪い耕作者があるだけである」。

生命の鍛錬

大祝福師——エルドレッド・G・スミス——



起している記事に気がつきました。

私は主の「みたま」が私と共に在ってこの大会に於て他の人々に与えられたと同様の靈感を私も持ち得るように祈ります。

私は昨夜ニュースの主筆のページに我々の住むこの問題の多い世界に我々の注意を喚

貴方は何か問題がありますか？ 貴方は何か困難がありますか、貴方は何か試練にあっていますか、貴方は何か失望したことがありますか、貴方は何か心痛な思いをしたことがありますか。貴方は災害が貴方の上にふりかゝって来て完全に貴方をおぼらしてしまったと感じたことがありますか、貴方はまた何故こんなことが私に起るのだろうかと呼びたいような思いにかられたことがありますか、貴方は常に誰かが貴方よりも、以上に苛酷な

目にあっているのを発見するでありましょう。

私は盲人である中年の婦人と話をしました。私はその他のこの教会に改宗したこの生涯に於て肉体上のハンディキャップを持つ盲人、跛者、癱たちに逢いました。この婦人は生れつきの盲人ではありませんでしたが教会の改宗者でありました。私は彼女にどのようにして教会の会員になったかたずねましたところ、彼女は宣教師が彼女の為に備えてくれた点字及び語る書物を通じて彼女が如何に福音の知識を受入れたか、また彼女の勉学と主の「みたま」を通じて福音の証詞が如何に彼女にもたらされたかに就て説明しました。

私は彼女の家族に就てたずねました。彼女

は眼の見える二人の姉妹を持っていることを指摘しましたが彼女は言いました。「彼女らは見えません」彼らはその視力を持っていながら福音を理解していなかったのです。彼女らはそれを見ることが出来なかったのです。彼女はその身が福音を持たない彼女の姉妹たちに代るよりも現在のように見えなくとも、福音を持つ方がよいと証詞しました。このことは、ほんとに私の胸を打ちました。

神は遠方を見るために我々に暗黒を与えます。神は光を与えて視界を閉じます。星は夜と同様に昼間も輝いているのですが我々は星を見るために暗黒を必要とします。我々はこの盲目の婦人がなしたと同様に「みたま」を通じて我々のこの肉眼で見るよりも遙か遠方を見ることが出来るのであります。この生涯は対照に充たされて居ります。我々は喜びと苦痛、善と悪、徳と不道德を持って居ります。この生涯の一つの目的は試みられ試練されることで誰かが言ったように彼らは何故その若い時代に福音を受け入れなかったのでしょうかといふのであります。彼らは福音を聞き受入れるのに三十才または四十才または五十才あるいはそれ以上まで待たねばならないのであります。恐らくこのためしの生

涯の目的の一つは、彼らに試練がもたらされた時、そのような環境下に在って、彼らが果して福音を受け入れるであろうかどうかを見ることにあります。

故にこの生涯は、人が彼自身の経験によって従順を学ぶことの出来る。ためしの時期であります。現代の啓示によって主は我々に告げて語られます。

「さりながら、悪魔が人の子らを試むるは是非必要なり。すなわち人は悪魔の誘惑なければ己が自由意志を使い得ず、何となれば人もし苦きを知らざれば甘きを知り得ざればなり」教義と聖約二九章三九節。

主は再び言われました。

「見よ、われ汝らにすべての事を悉く命ずるは至当ならず。そは、すべての事己むを得ざれば為さざる者は怠惰なり、賢き僕にあらざればなり。これを以て彼は良き報いを受くることなし。われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由の意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ。そは人自らの中に自由の意志ありて己れの事を自ら為す者なればなり。

従って人善を為さば決してその報いを失

わざらん。されど命令を受くるまでは何事をもなすことなく、疑いの心を以て命令を受けこれを不精不精に守る者は救われず」。

(教義と聖約五八章二六節―二九節)

主は我々に我々の自由意志を使うように期待して居られます。これが我々が自由意志を持つている所以であります。主はまた我々の祈りに答えるようにその援助の手を差伸べます。我々が強さを求める時、神は我々を強くするために我々に困難を与えます。我々が智慧を乞う時神は我々に問題を送りますが、その解決は、智慧を進展させます。我々が榮えるように願う時、神は我々に働らくための筋肉と頭脳を与えます。我々が勇気を乞い求める時、神は我々に克服すべき危険を与えます。我々が好意を求める時神は我々に機会を与えます。

これは我々が強くなつて終局に於て完成に到達するための生命の鍛錬過程であります。これは我々が鋼鉄を鍛えるのと同様であります。鋼鉄を鍛えるのに幾つかの過程があります。一人が鋼鉄の棒を取ってハンマーで打ちまた加熱する過程を通します。より頑丈な鋼鉄を得るためには、もつと多く打たなければなりません。これは銃剣の如き最上の鋼鉄で

あります。我々は鋼鉄の中味を代えるのではなく、ありません。この過程を終えてもそれは同様の中味であります。けれどもそれはよく打つ過程を通じてより頑丈な、より価値ある、そしてより堪え得るものとなるのであります。

他の過程は熱処理であります。我々は鋼鉄の棒を二つに切り、その一つを極度の高温に熱し、或一定の時間を経て速かに、極端な反対側、すなわち塩の溶液、冷水、油または焼入装置に突き入れるのであります。そしてまた再び熱から冷却に入れるのであります。そこでこのように処理された鋼鉄の棒は前に切り取った他の半分の鋼鉄を切ることが出来る程、固くなっています。しかも我々はその鋼鉄の中味を代えたわけではありません。生命の鍛錬の過程も、これと同様であります。

私にとってヨブの話は大きな教訓を含んで居ります。ルシフェルは、ヨブに対し、主が許したことのみに為しました。ルシフェルは許されている範囲内に於てのみしか我々に対し能力を持ちませんでした。ヨブの試練は只、段階を追うてもたらされたのであって、すべてが即座に來たものではありません。ヨブは一時にすべてに直面したら、それに堪える

ことが出来なかったかも知れません。それが段階を追うて、もたらされた時個々の試練は彼に次の段階に処する能力を与えたのであります。ついにルシフェルはヨブの靈魂そのものを打滅することを除いて完全にヨブに対する支配権を与えられたのであります。ヨブがこれに打克つた時彼はより完全になったのであります。ヨブにあったと同じように我々にもあるのであります。我々もまた試練と困難に堪え、それを通じて、完成に達するのであります。この過程は斯くの如くヨブをして不滅の証詞を述べしめる迄に至らしめたのであります。

「われ知る我を贖う者は活く、後の日に彼かならず地の上に立ん。わがこの皮この身の朽はてん後われ肉にありて神を見ん。」

(ヨブ記、一九章二五節二六節)

我々の内多くの者が「我信ず」と言います。けれども我々はヨブが言ったように「我知る」と言うことが出来るでありましょうか？我々はまた神は生き給う、イエスはキリストなり、ジョセフ・スミスは神の眞の予言者である。イエス・キリストの福音はこの末日に回復された、と言うことが出来るでありましょうか？これが我々が回答せねばなら

ない質問でありイエス・キリストの福音は、これに対する回答を我々に与えているのであります。生命の鍛錬を通じ最後まで堪え忍び打克つことにより我々は完成の域にまで、強められ我々もまたイエス・キリストの福音の証詞を持つことが出来るのであります。

主は………されど終りまで耐え忍ぶ者は、救わるべし(マタイ伝十章二十二節)と言われました。主はニーフアイ人に対して、言われました。

「見よ、われは律法にしてまた光なり。われにすがりて終りまで堪え忍べ。然すれば汝らは必ず生く。終りまで忍ぶ者にわれは永遠の生命を与うればなり。」

(ニーフアイ第三書一五章九節)

これは神の人に与え給う最大なる賜であります。そこで私はすべての教会の、善良な會員と共に貴方々に向つてイエス・キリストの福音は今や完全な形に於て地上に回復されたことを証詞し、又私は他の人々と共に、私は神が生き給ひイエスはキリストであり予言者ジョセフ・スミスは神の予言者であることを証詞致します。

(一九五八年一二八回大会より)

ジョセフ・スミスの殉教

一八四二年五月六日の夜、ミズーリ州の前知事リルバン・W・ボグスが彼の家に坐っていた時何者かによって窓よりピストルで襲撃され重傷を負った。ピストルは地上に発見されたが犯人容疑者は捕えられなかった。ボグスの生命は一時あやぶまれたが漸次恢復して来た。

彼はモルモン教徒追放の重要な役割をなしたので直ちにこれはモルモン教徒の仕業であるとの噂が広まった。前知事は何等判然たる根拠もなく教会の会員である、オー・ピー・ロックウエルを犯人として告訴状を作成した。そこでミズーリ州知事はイリノイ州知事にジョセフ・スミス及オー・ピー・ロックウエルをミズーリ州の代表者に引渡すよう要求した。

逮捕状が出され彼等は捕えられて身柄提出令状による裁判の結果、釈放された。ミズーリ州の予言者の敵共の計画は失敗したが、彼等は容易に挫けなかった。

内部よりの敵

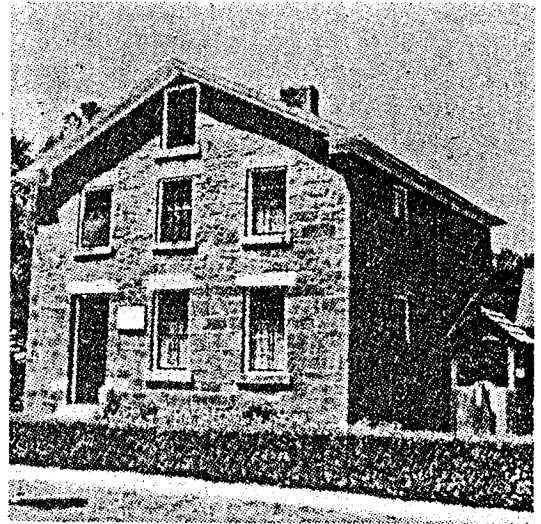
一八四〇年にジョン・C・ベネット博士がモルモンに加入して来た。彼は多くの才能に恵まれた教育を受け又能力もあつたが明らかに原則的な信念にかけて居た。その才能の故に彼は多くの重要な責任を与えられた。それから彼は道徳的な罪を犯しジョセフ・スミスに懲罰された。彼はノーヴーを去り反教会の書を出版して報復した。彼はそれからミズーリ州の教会の敵と連結しうすぶっていた憎悪の炎に油を注いだのである。その結果ジョセ

フ・スミス逮捕の他の計画となつたのであつた。けれどもこれも再び水泡に帰した。ノーヴーにもう一つのグループが居り彼等の極悪な働らきは大いに功を奏したのであつた。

教会の正会員たる資格を奪われた「ウイリアム」及び「ウイルソン・ロウ」「フランセス・M」及び「チャンセイ・L・ヒグビー」及び「チャールス・A」及び「ロバート・D・フォスター」の六人の者は予言者を滅ぼそうと決意した。

更に政治的状況がこの困難に附加された。モルモン教徒は最善に導く政策を持った人に投票し或場合にはこの党の候補者に又他の場合は他の党の候補者に投票した。一八四四年の大統領選挙運動には、二大政党何れの政策にも不賛成で彼等はジョセフ・スミスを大統領候補者にとシドニー・リグトンを副大統領候補者に指名して中間の道をとつた。モルモンの指導者はその政策の声明を出し多くの人々がこれに注目した。いろいろと掲げた中に彼は、政府は黒人問題を解決すべきであると主張した。

即ち所有者達に報償を与えて黒人を買取り自由の身とせねばならぬと擁護したのであ



カセージ半獄

る。

若し此の政策が採用されていたら、後に内乱（南北戦争）で犠牲となった財産や生命を救い得たであろう。彼は更に牢獄を学校にし有益な職業を教えて価値ある社会人となすべきであると提案した。

予言者の主旨を広く人々に知らせる為に多数の人が彼の選挙運動の為、ノーヴーを去った。これ等の人々がノーヴーに不在の内に予言者の迫害は最高頂に達したのであった。

一八四四年六月十日に上述の六名の者が、
「ノーヴー解説者」と云う中傷的冊子を出版した。

これは社会の最も秀れた市民を公然と極悪な者にしたので大きな騒ぎを起こさせた。

人々は激怒した。状況に対処する為市参事会は召集せられ証拠を取り治安条会を調べ、州議会に於て認められた人民の権利義務を決定する憲法に参照して印刷物を治安を乱すものと宣言し、市長であるジョセフ・スミスにその取締を命じた。

彼は更に市の警察署長に「ノーヴー解説者」の印刷機を破壊し、街にある同じ印刷施設の活字をまき散らし「ノーヴー解説者」及び施設内に発見されたすべての中傷ビラを焼いてしまうように命じた。署長はその命令を遂行して報告した。

その発行者たちは直ちにこれを口実とした。ジョセフ・スミスとその兄のハイラム・スミスは捕えられた。彼等は裁判の結果無罪となった。けれども長い間煽動されていた憎しみは今や烈火の如く燃え上った。噂は西部イリノイス全面に広まった。予言者の敵共はトーマス・フォード州知事の処え誇張した話を持って行き州知事はスミスに対して特に感情の激しているカーセージでジョセフとハイラムに逢い度いと要求して来た。彼は更に次の如くつけ加えた。「私は法廷に召喚されて

来る人、それ等すべての人をノーヴーから此処まで連れて来る時の安全を保証するであろう」と。

これに対しジョセフ・スミスは状況の容易ならざるを感じて答えた。「閣下が守護する事を約束されたとは言え我々は敢て行き度くない。貴方は同時に暴徒を治め得ずとの恐れを表明した。かかる場合我々には無慈悲の慈悲（力なき慈悲）に捨て去られる事となる。我々の生命は危険にさらされ無実の罪を負うこととなるから行きたくない」と。

予言者は知っていたので語った。彼は三七回も捕えられて無罪となったがこの時彼の最後の記事として雑談に書いている。「私はステイヴン・マーカムに言った。若しハイラムと私が今度捕えられたら我々は、ぎやく殺されるであろう。若しそうでなければ私は神の予言者でなくなるであろう」と。

彼は西方に逃避しようかと思った。けれども或彼に近い人達が彼にカーセージに行つて法廷に立つよう勧告した。彼の兄弟に彼は言った。「我々はぎやく殺されるであろう」それにも拘わらず一八四四年六月二十四日の朝、予言者と数人の仲間がカーセージに向つて出発した。神殿の近くに立止って彼等は、

五年前には単なる沼沢地であったが今は市となつて、威風堂々と立並ぶ建物を見渡した。彼と共に居る人々にジョセフは言った。「此処は最も愛すべき処だ。そして天下で最上の人々だ。彼等は待つてゐるところの試れんに就て殆ど知らない」と。

更に彼は他の重大な事を述べている。

「我は今ほおり場に引かるる子羊の如く行く。されどわが心は夏の朝日の如くにおだやかなり。わが良心は神に対しましたすべての人に対しいささかの咎めもなし、我は罪なくして死なん。而して、世の人々は残忍なる者の手に殺されたりと言わん」。

カーセージに着くと彼等は叛逆罪の故を以て捕えられた。それから彼等は偽の収監令状によつて監獄に送られた。この違法に対し抗議がなされた時、その返答は武装者による命令の強行があつた。

フォード州知事は控訴された。けれども彼は、それは民法の管轄事項で自分が干渉すべき担当ではないと答へ裁判所の判事に「貴方は指揮下にカーセージの兵士を持つてゐる」と言つた。

ジョセフ・スミスは州知事と会見することが出来、その時州知事は彼にその時カーセー

ジに集つた暴徒から彼を守ることを約束した。その上州知事は若し彼がジョセフ・スミスの要求に基いて事件調査の為に、ノーヴーに行く場合は、予言者を同伴するであらうことを確言した。この約束にも拘わらずフォード知事は、六月二十七日の朝、ジョセフとハイラム・スミスとウィラード・リチャード及びジョン・テイラーをカーセージの牢獄に監禁したまま又暴兵を市の広場にキャンプさせたまゝ自分は、ノーヴーに行つてしまつた。今は獄中の身となつた彼等は討論と手紙を書く事にその時間を費した。ジョセフはその妻に次の通り書いた。「私は義とされ、私の最善を尽した事を処して私の運命についてはすっかりあきらめてゐる。私の愛を子供達や又私をたずねるすべての人に与えてくれ。神よ！ 貴方たちすべてを祝福し給え」。

この手紙はその午後一時半に訪問した人によつて送り届けられた。

日が暮れるに従つて、一同の上に重い気分が感ぜられてきた。予言者の要求により、ジョン・テイラーは「悩める旅人」を歌つた。歌は救主に就て歌つたものであり、ノーヴーでよく知られてゐた。

讚美歌 一九三 「悩める旅人」

悩める旅人 よく我をよぎりて
いなむに由なき たすけを願えり
こし方行く先 名をだにえ聞かず
何とはなれど 眼に我が愛を惹く

我が膳乏しき日 彼飢え疲れて
語もなく入り来ぬ 皆与うれば彼
少しを返せり 此はあゝ天使の分
我そを食う時 ぐずさえ皆マナ

獄舎に見し彼 あゝ明日は謀叛の刑
嘲罵の中に我は 彼を崇めたり
「我がため死なむか」と 彼我に問えり
肉は慄ひしかど 霊「死なむ」と答えき

さて此の旅人 やがて記章もて
救の主とかわり 我が賤しき名を
呼びてのたまわく 「汝が我を恥ぢずに
せし行為忘れじ 怖づな我あり」と

歌い終つた時牢獄の戸の外でがやがやする音と引渡せと言う声が聞え直ちに三、四発の銃音が聞えた。リチャーズ医師が窓のカーテンから見ると約百名の武装した暴徒達が戸の

あたりに居た。暴徒達は建物を取巻いて或者は獄卒に迫り獄卒共は驚き恐れて二階に逃避してしまつた。彼等は戸を打破つて死の働らきを始めたのであつた。

ハイラムは最初に打たれて「我死す」と言つて床に倒れた。ジョセフは走り寄つて「おゝ愛する兄弟よ、ハイラムよ」と叫んだ。テイラーが打たれ彼は重傷を負うて床に倒れた。

幸運にも一発の銃丸は、彼のチョッキのポケットに入つていた時計にあたり彼の生命は救われた。銃丸が戸を通してとんでくるのでジョセフは窓にとびあがつた。三発の銃丸が殆ど同時に彼に命中した。二発は戸より一発は窓より来た。開いた窓より倒れ落ちながら彼は「おゝ主なる我が神よ」と叫んだ。リチャーズ医師は傷を受けずに逃れた。けれども教会は予言者とその兄弟である祝福師を失つた。卑劣な行為はほんの一、二秒の間に完成した。彼等は彼等の証詞を彼等の血を以て結び固めたのであつた。

悲しみと希望

ジョセフとハイラム・スミス殺害の知らせがノーヴーに到達すると市全体が暗い気持ちに

覆われた。翌日、死体がノーヴーに運ばれた。行列が通過する時数千の人が街道に並んだ。兄弟達は翌日埋葬された。

この間、カーセージの住民はモルモン教徒が大挙してうらみを晴らしに来るであらうことを恐れて彼等の家から逃去つてしまつた。けれども悪に對し惡を以て報いる処置はなかつた。

聖徒達は「応報するは我にあり、我これを報いん」と言つた主の御手に殺人者達をまかせた。

暴徒達はジョセフ・スミスを殺す事はモルモン教徒を全滅させることであると思つた。けれども彼等は信徒達の性格も又教会の組織も知らずにそのような事をしたのであつた。ジョセフは権能の鍵をブリガム・ヤングを長とする十二使徒会の上に与えた。そしてわずかの間或混乱があつたが人々は彼等をその資格に支持したのであつた。ブリガム・ヤングの指導の下にノーヴーの發展は続けられた。

けれどもイリノイ州に於てはモルモン教徒に平和がない事がだんだんとはつきりとして来た。法律は殺人者を罰しなかつた。州知事は明らかに彼等と共謀していた。どうして彼等がめざした全滅を成し遂げずにすまずであ

ろうか。

殺人の衝撃が始まると再び財産の略奪が始められた。野の穀物は焼かれ牛馬は追い散らされた。そして郊外の家々は破壊された。この状況下にブリガム・ヤングと教会の他の指導者達は所謂彼の言う「惡魔が来て我々を追出す事の出来ない地」を求める事に決心した。

ジョセフ・スミスはモルモン教徒がノーヴーの平和を楽しんでいる一八四二年に著名な予言を語つた。彼は言つた。「聖徒は大なる苦難にあいロッキー山に追わるべし、而して教会に忠実なる如く装うものは離反し、真に忠実なる或る者は殉教の災を蒙れどもなお或る者は生永らえてロッキー山に移住し都市を建て強き民となる可し」と。

西方の広原の中に平和への彼等の希望を置く処があつた。不斷に暴徒の脅威に悩まされながら彼等は一八四五年の秋に彼等の美しい市を去つて彼等の良心の命ずる処に従つて神を礼拝することのできる処を見つるべく荒野に向つて出発する準備を始めたのであつた。

(ゴルドン・B・ヒンクレイ著
「モルモン」とは？ 九二頁〜九九頁より)

マーク・E・ピーターソン

リチャード・L・エヴァンス

(十二使徒会々員)

マーク・E・ピーターソンは誠実な慎み深い人で、けんそんではあるが非常に勇気があり有能で休みなく働らいている。

彼独特の、タイプライターの打ち方は誠に見事である。彼は新聞記者タイプの自己流の打ち方をする。迅速で判然として居り、一枚々々の紙上に期日の切迫感が印象づけられている。

屢々非公式の会合で討論が決定的となった時或は結論を得ない時、ピーターソン兄弟は、タイプライターを持って来て「紙に打って見よう」と言って、彼が語り又は旅行し、又其他彼の為す、すべての仕事と同じ勢力を以て打ち始める。彼の考えが紙上に進み出て来る機械的な行程に彼がその精魂を打込むの

を見る時に人は彼の肉体的又智的持久力に印象づけられる。これは彼が新聞記者として習得したものゝ一つで彼に非常に役に立ったのである。

ピーターソン兄弟の話は聞いたことある人には何等評価証明を必要としない。彼が主題を発見して繰返し強調する時語句に語句を、証拠に証拠を、即座に進展したかのような概略ではあるが尙且予め書き記された如く完全で常に忘れることなく結論が与えられている。彼の話は卒直で真実で効果的であり不足する処なく又無駄口もないのである。彼の旅行は不断に且広範にわたっている国を越え、ステーク部を再組織し又彼が副社長であるところのオレゴン市製紙工場の会合に出席した

り種々の引続く任命を受けて広く全世界に亘って語り、勇気づけ又忠告を与えているのである。

例えば一九五五年ピーターソン兄弟及びピーターソン姉妹は南アメリカ伝道部を熱心に視察して戻って間もなく（八ヶ国から十ヶ国に及んで一九五四年十一月十五日に去った）大管長会によってタバナクル合唱団のヨーロッパ演奏に先だちその予約準備の為ヨーロッパに派遣を命ぜられ数日間の内に七、八ヶ国をめぐってその目的を達したのであった。

最近の記憶によっても彼は一週間内に二度カリフォルニアに、一度はアイダホに、一度はワシントン市に行き而も彼の日常正規の集会には殆ど出席し、少しの疲れを見せることはあっても決して姿を見せないことはないのである。

彼はまじめな擁護者でありすぐれた友人であり公正な判断者であり疲れを知らない働き手である。誠実な慈悲の人で悲しむ人には情けある慰め人であり、まじめに過ちを悔改め事実を追求主張する人々の主将である、悔改めることなく過ちを主張する不真面目な罪人に対しては正義の為の闘士である。

彼がなすことはすべて実に印象的に迅速で



新聞記者 ピーターソン

且稀に見る正しき判断によりなされ即刻の洞察力を以て決定される。彼は優勢な意見に抗する勇氣を持つて居り、よく考慮された後になされた最後の決定を受入れる良識を持つてゐる。

これ等すべてが彼の生活の典型的なものである。山積する仕事、迅速な仕事、熱烈な仕事、理智的な仕事、常に新聞記者としての毎日の期日の切迫感の下になされるのである。

評判とか流行及びほまれ又物質的な富等を彼はあまり考えない。それは彼が愛するその妻エマ・マーも同様である。彼女は彼と同様に淡泊であり、勇氣あり、卒直である。彼女

はスコットランド人の先祖により卒直な事実のみ傾く個人の尊厳をそなえられているが常に人のことをよく考える。

彼の父のクリスチャン・ピーターソンはマークが生れた時建築家であつた。それは一九〇〇年十一月七日のことであり、その家はその街道を越えてソルト・レーク市の福祉地域となつた処に在つた。

マークは勤勉に育ち最初に新聞記者生活をした。彼は又父の建築を手伝い、未だに木材を用いて堅固な家などを作るのが好きである。そして今でも少しひまがゆるす時は家の周りの仕事をして無限に消耗する旅行や教授、決定や人々の問題に従事して生ずる緊張感をゆるめるのである。彼は彼の家を愛し、彼の建てた節の多い松の木のリクレーション・ルームでピンポンにくつろぐ時間を非常に楽しみとしている。彼は食器棚等の家具を製作し又如何なる物でも好んで改良する。

マークは技師になることが出来たかも知れない。彼の父はそのような考えで彼がソルト・レーク市の学校を終えてから父の建築事業に役に立つよう彼をユタ大学の工科に入れた。けれども情勢はこれと異つた。

カナダへの伝道の召しがあり彼は一九二〇

年の一月十三日から一九二二年の七月七日迄故判事ニーフアイ・ジェンセンの伝道部長会の下で、ノヴァ・スコチヤで働らいた。彼とその同僚は約二十才位でノヴァ・スコチヤに働らいた最初の宣教師であつた。

殆どの宣教師と同様にピーターソン兄弟はカナダ伝道部から歸つた時、仕事を探さねばならなかつた。記録によれば彼は簿記係として、又ユタ、リンダイルの貨車取調べ係として働らき一九二四年にソルト・レーク市のデゼルト・ニュースに仕事を見つけた。ここで彼はニュース報告者として、原稿整理係、ニュース編纂者、編輯長、総支配人及び社長を務めた。一九四一年八月一日に総支配人となり、一九五二年の十二月二日に社長となつた。新聞社で駆け出しの記者から社長になる迄の間に彼は緊急重要な決定を与え、個人的利害及び公共的政策を評価する能力及び正確に書くことを学んだのであつた。ニュース程滅失され易いものではなく新聞記者は今日為さねばならない仕事をのぼすことは出来ない。マークは「自分自身で為せ」の哲学に加えて「今為せ」の必要をも学んだ。これはねぶみ出来ない資産となり彼の個人的又職業的な成果を授けた。

ピーターソン兄弟はデゼルト・ニュース出身者として、老幼を問わず仲間たちの尊敬の念を一身に集めた。常に慎み深く、称讃の言葉を避け、当然でない名譽に困惑し、責任感と迫られるような氣持で個人的に社員たちとの親密さを保ち、彼等の問題に心を用い、その利害關係に活動的で特に彼をその名で呼んでくれることを喜んだ。

故アルバート・E・ボウエン長老の指導の下にデゼルト・ニュースは紙不足の脅威の保証として、ロスアンゼルス・タイムスのチャンドラ家と協力して、オレゴン製紙会社の高価な株を購入し、非常に成功をおさめた。そして此の企業に副社長としてピーターソン兄弟はアルバート・E・ボウエン長老の後継者となったのであった。彼は又ソルト・レーク市の新聞社協会の副会長でもあった。

ピーターソン兄弟は事業を経営すると共にソルト・レーク商工会議所、及びユタ製造協會又はソルト・レーク派出看護婦協会の理事又は重役として、又ソルト・レーク市のキワニ・クラブの副会長として（彼はこの名譽會員であつた）又其他多くの市民機関又は企業に奉仕した。教会外の彼の多くの友人が彼に大きな友情と信頼を示し、これ等の人々及び

他の団体によつて国の内外に於ける種々の場合に話をするように頼まれている。

マーク・ピーターソンの教会上の経歴は彼の若い時に遡り概に或重要な役を与えられていた。

リバティ・ステーク部の第一ワード部から彼は一九二〇年一月にカナダの伝道に召された。伝道から帰任しても、まだ非常に若かつたマークは一九三一年四月、ブライアント・S・ヒンクレイ部長の下でリバティ・ステーク部高等評議員に召された。更に一九三六年リバティ・ステーク部長会に於てJ・パシィ・ゴッド部長の第二副部長となった。

ハイランド・ステーク部に移つて後彼は一九四一年から四三年迄高等評議員を務めた。一九四三年シュガーハウス・ステーク部が組織された時彼はトーマス・B・ウイラー部長の第一副部長となった。そして一九四四年四月十二日使徒会の空席を充たすべく召される迄その職を務めた。

これ等の教会上の任命と併行して彼は三十才の時にユタ系図協会の理事会の會員となり協會協議員の一員として広く全教会を通じて旅行している。一九五〇年から彼はこの系図協会の副会長となり広範に普及したマイク

ロフィールム及び其他世界的活動に奉仕している。

彼はデゼルト日曜学校協会の中央管理委員會として務め、又ワード部及びステーク部に於てアロン神権の會員たちに効果ある働きをなし、又他の或非常に個人的な方法を以て、たとえば、教会内で高い著しい務めに上げられた少年たちはピーターソン兄弟の異様な感化力を証明している。

彼の新聞記者としての歴史は多くの場合にそれが天与の職であることを証明した。その一つとして教会の記事取扱者として彼はグラント大管長及びその副会長及び大管長会の後継者たちを含む教会幹部と並々ならぬ親交の機會を持った。



ピンポンを楽しむピーターソン夫妻

或時彼は教会の為に一連のラジオ放送をした。それ以来経緯して教会放送局の「チャーチ・オブ・ザ・エア」の語り手となっているデゼルト・ニュースのチャーチ・セクション及び其他あらゆる場所に於て殆ど無数の編輯をなしているのに加えて彼は若い人たちの為に、書いた「一時的の爲か又は永遠の爲か」と題する書の著者である。チャーチ・セクションに印刷された多くの編輯は「貴方の信仰と貴方」と題する書に含まれている。彼が書いたパンフレットは「貴方の信仰に徳を加えよ」「貞潔」(注特集記事第四に掲載した)「何れの教会が正しいか」「知恵の言葉」「何故モルモンは神殿を建てるか」がある。

第二次世界大戦中に彼はチャーチ・ニュースのLDS軍人の刊行物を発行しそれは一九四四年の五月十五日から始められ一九四八年の七月迄継続した。

彼はメルケゼデク神権委員会、教会宣教師委員会、宣伝及び事実調査委員会、インデアン事務委員会等の会員であり相互発達協会及び扶助協会のアドヴィザリーであり又教会の総音楽委員のアドヴィザリーの一人である。

マーク及びエマ・マー及び彼等の家族及び友人たちは音楽に於ける彼等の親交を又聖歌隊

指揮を含む彼のワード部活動に対し感謝している。そして其処で彼は聖歌隊の伴奏者エマ・マー・マクドナルドに逢い結婚し、彼女は未だにマークの伴奏者であり、彼の生涯の最大なる祝福者であるのである。エマ・マーは才能あるピアノリストで教会で又彼等の家庭でオルガンを演奏し、マークと共に音楽に積極的且傑出した関心をよせている。

エマ・マー・マクドナルドはノヴァ・スコチアのシドニーで生れた。然し子供の時に其処を去った(人生の糸は面白くあまれるものである。若しもエマがノヴァスコチアに留っていたら彼女は其処で宣教師としてのマークに逢っていたかもしれないであろう。けれども遂には結ばれるべき会合はその後ソルト・レーク市に於て来たのであった。彼女の父は船長であった。エマの母サラ・マクデラミッドは(ブリッジ島の出身である)稀に見る理解のある心の持主であった。教会への改宗者では今の最近に九十四才で亡くなった。マーク及びエマ・マー・ピータソンの長い結婚生活の間のよいお客さんであった。

マークが一九二三年八月三十日、ソルト・レーク神殿でエマ・マー・マクドナルドと結婚したが、彼女は彼にとって非常に大切な存

在であった。彼女はマークのよき同僚であり、忠告者であり、稀に見るよい判断を下し良識と識別力ある卒直さを持った二心なき友である。

すべての彼の仕事に於て彼を援け勇気づける心からやさしい人でまた、マリアン・ピーターソン及ペギー・ピーターソン・ステイヴン(三人の孫の母)の二人の娘の秀れた母である。

彼の伝記はまだ書かれていない。過去にも現在にも、如何なる適切な方法によつてもなされてない一つには彼が心から評判をきらい彼自身に関する事実を提供することを惜しむからである。

彼は鄭重な態度で暖い心からの微笑をたたえ美しい男らしさをそなえ偉大なる勢力家であり、家族に、友人に、同僚に、国に、教会に、イエス・キリストの福音に深く忠実に献身している。又彼は特別な証人として聖任された重任に任じ、彼の堅い一貫した信仰を以て最も誠実な効果的な奉仕に彼のすべてを捧げている人類の救主なる主に忠実に献身しているのである。

ピーターソン長老夫妻を迎えて



羽田空港にて

ノースウエスト機は数時間おくれて羽田に着くと知らされても十一時に集った会員達は帰ろうともせず、羽田のロビーで時間をつぶしていた。東京の会員と地方の会員の間でのな会話がかわされていた。

「よく出て来ましたね」

「聖徒の道の記事を見、びっくりして上京しました。」

「そうですか」

「あの記事は誰方が書いたのですか」

「伝道部長だそうですね」

「そうですね。どうしても羽田に向えねばならぬという気持をあの記事はおこさせましたからね」

午後の三時頃になると出向えの会員達は、百人を越すと思われる程、羽田のロビーには末日聖徒の見知った顔で埋まった。

三時半頃から雲が切れはじめ、光がさして来た。ピーターソン長老夫妻の為に雲がよけたと思う程それは急であった。

三時四十分、苦闘のあとを物語るように、エンジンの一基を黒くこがしたノース・ウエスト機は我々の眼前にとまった。

ウェルカム・ピーターソン長老夫妻と大書した二つのプラカードは風の為に破れてしまった。黒っぽいスーツに身をつつんだ夫妻がすがたをあらわすと、自然に一同の口から「感謝す予言者」がついてでた。スチュワードと機長らしき人物に言葉をかけてから、ゆっくり我々の方に帽子をふられるピーターソン長老夫妻は、明らかに他の乗客とはちがつていた。

ロビーで「百一番」を三節まで笑顔でできた夫妻は出向えの会員達に感謝の言葉と短い挨拶をされ、一人一人に握手をされたが、子供づれの会員にはかならず子供をほめ、頭をなでていた夫妻のすがたは、使徒を始めてみる会員たちをいたく感激させたようである。プラカードをかかえた会員にはよくみえたと言ひ、大変喜ばれて感謝の言葉をのべていた。

長老も姉妹も写真よりずっとふけておられるように感じた。暖かいまなざしとそのスピリットはさすがに使徒職にある者であると感じさせる。

かくしてカウリー長老、リー長老、スミス長老、ベンソン長老に次いで戦後五人目のキリストの特別の証人である十二使徒の一人をここに迎える事が出来たのである。(M・O生)

東中央地方部特別大会

―予言者と共に過した感激の二時間―

伝道部のすべての会員が等しく待ちに待っていた教会の幹部役員の一人、十二使徒のマーク・E・ピーターソン長老が夫人同伴で、当伝道部を訪問されたのを契機に、東中央地方部では五月十日、午前九時半より東京の産経ホールで特別大会を開催した。

九日の午後飛行機で到着したばかりにも拘らず、疲労の様子もなく、たえず笑みをたたえながら御二人がアンドラス伝道部長夫妻と共に

にホールに現われたのは十日の朝九時頃であった。地方部長のヘンリー・高橋長老の配慮と指揮のもとに各支部に六名ずつ案内係が任命されてこの朝の全出席者の案内役を果たした。

建てられてから間もないホールは塵一つなきまでにきれいに清掃され、安息日に相応しい清潔さと神聖さとをかもし出していた。

大会は時間通り九時半に開会され、讃美歌は全教会員の愛好する「恐るな聖徒よ」であった。私たち一同は心から、熱心にこの歌を歌った。声は、広く高い天井にこだまし、大



帽子をふって会員の歓迎に答へる
ピーターソン長老

会の雰囲気はいやが上にも高められた。ピーターソン長老夫妻の方々に視線を向けると、御二人もたとえ言語は異つても、
“Come, Come ye Saints”と口ずさんでおられた。私た



羽田空港ロビー

ちの愛する予言者のひとり、今私たちが一同と共に同席され、同じ神の「みたま」を感じつつ聖歌を歌っておられるのだ。何と

いう感激であろうか。

お話は四人の地方部評議員によって始められた。会員一同はそれらの話によって当教会の真実性に対する証詞をより確固たるものとする事が出来たにちがいない。続いてピーターソン姉妹の話、その間に東京L・D・S合唱団の聖歌の合唱が折り込まれた。

やがてすべての人が待ち望んでいたピーターソン長老のお話になった。彼は静かな語調ではあるが、しかし威厳ある態度で語り始められた。その声はマイクを通してホール全体にひびき、私たちの胸を強く貫き透した。末日聖徒イエス・キリスト教会が回復された真実の神の教会であるとの証詞、これは私たち



会員と握手を交わすビーターソン長老夫妻

者より聖霊に充ち溢れた力強い話を伺い、真に「最高の救いは家族を基礎としてもたらされる」の感を一しお深くした。この会に於てビーターソン長老は家族の人々がそろうて最高の榮に進むことができるよう、互いに清く正しく生活しようと呼びかけられた。

続いて夜の集会に於ては「背教と回復」と題して実に細いところまで理路整然と話され、本当に背教が起ったという事実と回復が如何に必要であつたかということをはつきりと知らされたが、この話はいわゆる世の「クリスチャン達」には非共聞いて貰いたかつたものであつた。

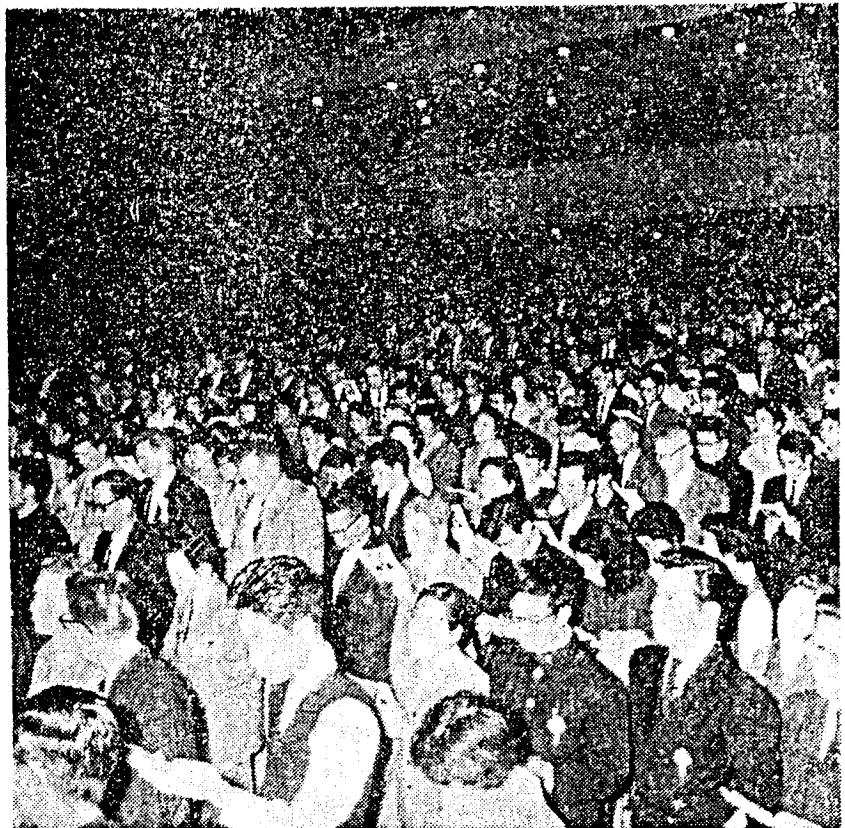
(K・W生)

の心を感激させずにはおかなかつた。恐らくここに出席した多くの非会員でも、またはじめてのこの教会の名を耳にした方でも、この予言者の言葉により強く何物かを自己の心に銘じ得た事だろう。わずか三十分余りに亘る説教ではあつたがそれは神より与えられた大いなる恩恵と祝福とを意味するものであつた。

使徒ビーターソン長老夫妻は大会終了後出席者全員とひとり／＼親しく握手を交わされその輝いたひとみにも、また握手にも、日

米軍の
大会にて

本人に対する深い愛と親しさがはつきり表わされているのを感じた。予言者と共に過した貴重な二時間——それは私たちひとり／＼にとつて感激の二時間であつた。(H・S生)



“あう日までつつがなく”

東中央地方部特別大会は実に 750 人の参加者があつた。

印象深い懇親会

Ⅱピーターソン長老夫妻を囲んでⅡ

五月十一日午後七時半から東京南支部で地方部評議員及東京・横浜各支部長会々員が夫人同伴で使徒ピーターソン長老夫妻を囲んで懇親会が催されるとの知らせに、当日同刻迄に多くの会員家族が幼児をも伴って賑かに参集した。新婚夫妻や婚約者も交えて多彩な歓迎陣である。一部の兄弟たちは門前に待機したが定刻を過ぎても使徒一行の車は一向に姿を見せない。約三十分経過して八時過ぎ、伝道部長に伴われて使徒夫妻は温顔に笑みをたたえながら一人々々に暖い手を差のべながら席に着かれた。

先づ伝道部長がぎっしりつまった日程の上に、車中話し込んで多摩川迄乗越した為遅れたことを謝し終るや否や、ピーターソン長老はこの度の長途の旅、数日來の多忙な日程にもかかわらずいささかの疲れも見せず、直ちに名に聞えた通りの疾風迅雷の事務的態度で各支部長よりつぶさに現状報告を熱心に聴取された。冷い飲物にくつろぎながら面白いお話でも聞けると期待して奥さん方を伴って楽しく集った兄弟たちはどきもを抜かれたよう

であったが、中央支部長を筆頭に、西、南、北、横浜の順に各支部とも無事報告を終え、これに満足されたピーターソン長老が口を開かれた時は既に九時近かった。佐藤竜猪兄弟を通訳とされて一時間余に亘ってあたかも、



ピーターソン長老夫妻を囲んで

父親がその子たちを諭すように諄々と説き教えられ、その大いなる愛情に一同深く感銘を受け、時の経つのも覚えなかったが、話が終った時は早や十時となり、記念写真を撮ってそれ／＼家路に着いたのであった。ピータ

ーソン長老のお話の要点は次の通りである。

(お話の要点)

支部会員は家族の夕べ家族の祈りによって日夜神に祈りをなし、朝起る時も、食前も、夜寝る時も常に祈ることを忘れず、子供たちに愛と祈りを教えなさい。

月の第一日曜には二食の断食をすること、長期の断食をする必要はない。又子供老人病人は断食せずともよい、断食の時は併せて祈りをして神に近づくのである。

又断食献金によって他人に奉仕することは主に仕えることである。何となれば主は「わが兄弟なる之等のいと少き者の一人になしたるは即ち我に為したるなり」と言い給うからである。

知恵の言葉を強調、純潔、貞節、誠実、廉直、謙遜等の高い徳を備えてよき模範者となるように特に指導者としての責任を果たすべく常に神の誠命と導きに忠実に従うように要請された。

軽飲食が出るとの話で私は夕食を控え目にして置いたが、その軽飲食はかげも形も見られなかったけれども、私たちは得難い眞の食物で満腹したことを、天の父なる神とピーターソン長老夫妻に感謝したい。



「宣教師大会のタレント・ショー」

「われは生命のパンなり、我に来る者は
飢えず、我を信する者はいつまでも渴く
ことなからん」

「夫わが肉は真の食物、わが血は真の飲
物なり」
(M・W生)

宣教師大会にて

福岡から旭川までに至る日本全土に伝道
するすべての宣教師は五月十二日、山梨県
の富士ビュー・ホテルに集まり、宣教師大
会を開催した。ホテルはいうまでもなく、
天候にも恵まれ、大会の雰囲気はいやが上
にも高められた。

二日間に亘る大会の間に十二使徒のマー
ク・E・ピーターソン長老及びポール・C
アンドラス伝道部長の靈感あふる話があ
り、八時間半に亘る証詞会は大会の最後の
日に行われ、それは献身的な奉仕によりこ
の国の極めて多くの人たちがこの教会に来
るようになり、日本は地上の国々に対して
光となるであろうとの使徒ピーターソン長老
の約束の言葉により最高潮に達した。

大会の間に、主の「みたま」は豊かにす
べての人の上に注がれた。宣教師たちはみ
な力と精神とを鼓舞され、且つ日本の地に

神の王国を打ちたてんとの決意を新たに
五月十五日各自の任地に向って帰途についた
のであった。
(G・N生)

ピーターソン長老夫妻とアンドラス部長夫
妻は宣教師大会終了後韓国へ向け出発した。

韓国にて十六日宣教師大会、十七日は地方
部大会を開き、月曜には予定に違わず東京に
帰り、十九日の火曜には大阪毎日ホールに於
て開かれる西中央地方部大会にむかわれた。
大阪から二十日の午前中に東京に着かれた一
行はそこで大管長会第一副管長のリチャーズ
長老が亡くなられた電報を受け取られた。ピ
ーターソン長老はさすが新聞記者だけあって、す
ぐさまタイプに向われ大管長会へ手紙をタイ
プしておられた。その日の午後、札幌の自治
会館の北海道大会にのぞむべくJ・A・L機
の人となった。二十一日の夜には、秋元彬江
姉妹のピアノ演奏会場の東京神田の共立講堂
にそのすがたをみせ、二十三、四日の沖縄の
大会出席の爲に二十二日羽田を発たれた。古
代ならば一年以上もかかるうと思われる旅程
を二週間で終えられ、しかも大きな足跡をの
こされて南部極東伝道部へピーターソン長老
夫妻は二十五日に無事出発された。



回復された福音

〓一九五九年五月十日産経ホールに於て

開かれた東中央地方部特別大会の講演〓

マーク・E・ピーターソン

△特集記事 3 V

私の兄弟姉妹よ、ここに皆様に挨拶することが出来るのは本当によろこびであり、又光榮に思います。このすばらしい大和の国に来て話をする特権はよろこびであります。又暖かいスピリットを感じるのはよろこばしいことです。

私は妻と共に皆様と空港で会えよろこんで居ります。最もすばらしい讃美歌の一つ「感謝す予言者」を聞いて、そして又、皆様と握手することが出来て本当によろこびで一ぱいです。又、今朝愛する皆さんのコーラスを聞いて感激しました。

私がソルト・レークを去る時、偉大なる

マッケイ大管長は私達と握手して、このたび、共に行けたら良かったといわれました。

大管長は日本へ来るキップを予約しておいたのですが姉妹の体が思わしくなく、そのうえ、彼の目の手術の回復が良くなかったので、主治医が日本へ旅行することをとめたのでした。マッケイ大管長は愛と祝福を私にたくされました。

今朝この会場に来て、私は皆様の話をアン・ドラス部長の通訳を通して聞く事が出来て大変喜ばしく思いました。

これら全部の話に共通していえる事は、末日の世において神が御自分の体を現わしたも

うたという事実です。この事は以前にはありませんでした。神が御自分の体を現わさなかった理由は、人類が神に従っていなかったからであります。又啓示を受けなかったから人々はもう、神は御自分の御姿を示さないと信じたのです。啓示を与えられなかった彼らは自分の作った哲学を信じて間違った宗教を広めました。それは個人の宗教でありました。彼らは自分が啓示を受けたといっています。しかし、そのことを調べるとそのうちには古代の啓示のようなものをなに一つ含んではいません。それで困乱し迷ったのです。それで多くの宗教が出来ました。これは自分の智慧によって作った宗教です。

しかしながら、これで人類は救われるでしょうか。人は神の道によってのみ救われます。人は人の作った道では救われません。

末日聖徒の教えは、今日この世に神が真実に語ったもうということと、神がアメリカに來りたもうたということです。今の時代に來ました。予言者ジョセフ・スミスに現れました。顔と顔を合せて語りました。私があなた方と語ることが出来るようにです。

彼は神が人間と同じ姿であると信じました。そして神は榮光に満ちていました。神に似

せて人を創りましたから神は人と同じ姿です。

神は最も愛する独子でましますキリストと共に来ました。神はキリストをジョセフ・スミスに示し、[〃]愛する子[〃]といわれました。これに会ったジョセフ・スミスは身にも心にも銘記しました。そしてキリストを信じました。

この示現によって我々はイエスこそキリストであると信じます。イエスこそ救い主であると信じます。これ以外に救い主はありません。キリストこそこの世の救いであります。

ジョセフ・スミスに与えられた示現のうち、もう一つの事柄があります。それは真の教会についてのことです。この世には今まで真の教会はありませんでした。ジョセフ・スミスにキリストが現れたその時、キリストはどの教会にも入ってはならないといわれました。

時は来ていました。真の教会を立てる時は来ました。キリストはジョセフ・スミスを真の教会をうち建てる人とされました。主とキリストが現われて示現を御与えになつてより、数年を経て、また新しい啓示

が与えられました。モロナイがあらわれました。この天使こそ古代アメリカの予言者であり、モルモン経を与えたその人であります。

またバプテスマのヨハネもまいりました。ヨハネはヘロデのときに迫害されて死んだ人です。キリストが十字架にかかりもうた前のことです。天使として復活してジョセフ・スミスに現れたことこそ、私達が不滅であることの証拠であります。彼は神権を持っていたので天使となつてスミスに來り、神権を与えました。

そのほかに、ペテロ、ヤコブ、ヨハネが現れました。この三人はキリストの時代に生きていた人です。彼らもまた不滅の証拠を死すべき我々の前に示しました。使徒職の権能と能力を与えました。

神の命令により、このような方法で神権は再びもたらされました。また、ジョセフ・スミスに神が神権と能力とをもつて、まことの教会を建てよといわれました。

救いはキリスト以外にありません。人がどのようにに教会を示してもそれは救いではありません。キリストが建てたもうた教会以外には救いはありません。ジョセフ・スミスの以前の時代にはまことの教会はありませんでし

た。それでまことの教会を回復する必要があります。それこそ末日聖徒イエス・キリスト教会であります。

この教会は日本にも来しました。そのわけは神が皆様を愛しているからです。神に救われるなら、神のみもとに行つて住むことが出来ます。それには誠命に従わなければなりません。それ以外には救われません。それから本當の教義を学んで下さい。經典を学んで下さい。宣教師の言葉に従がつて下さい。兄弟たちの言葉に耳を傾けて下さい。

誠命を守ることにより皆さんは救われます。そして先祖にも救いをもたらせるのです。それにより神の前にかえり、かえさせられるのです。私たち一人一人の救いのために先祖のために働きましょう。

神の福音は遠い国にも述べ伝えられます。墓を越えた他の所にも、もたらされます。先祖のために我々は糸図を調べ、また先祖の知識を調べる必要があります。そうすれば、神殿で彼等の為に儀式がほどこされて彼らは救われます。

この回復された福音を信じて守るならば、あなた方は救われます。私たちもそうなるように祈るのです。

(細野武兄弟連記)

貞

潔

マーク・E・ピーターソン

今日遣わされた選抜きの霊たち

かつてこの世に住んだ若人たちの中でも、今日の若人は最もすばらしい若人である。私がかく信ずる理由を述べるならば、主の宣うた如く、我々は今末日に住んでいるのであり、そして、予言者たちの言葉によれば、天国の霊すべての中でも最優秀の者がこの末日に出て来るために残して置かれたのであった。毎年毎教会の若人たちの爲す進歩を私はよく知って居り、また、あなた方が天国の霊の中で最もすぐれた者であり、神がこの世に大いなる業を爲さしめたため、あなた方を遣わしたもうた事を信ずるものである。神はあなた方を愛したもう。あなた方は神の子なのである。

前世に於て最も忠実な者であつたが故に、あなた方は最もすぐれた霊なのであつた、この忠実という事こそ、人をして神の御目に大いならしむるものである。そしてまた、今日、この世に遣わされてゐる選り抜きの霊たちは、その以前もまたやはりすぐれた者たちであつた。何故なら彼らは真実にして忠実、信仰あつき者だったのである。

さて、この大切な末の世に於て、神の必要としたもうものこそ、その御業を爲し遂ぐべき者、前世に於ても試れんに耐え抜いて来た、そして真実であつた者であり、また、彼らがこの世でもやはり同様にすべての誘惑に打ち克ち、強い真実な者として、救い主、神の愛子イエス・キリストの

再臨の備えのため神がこの末日に、お始めになつた御業を推進して行く事を神は望んで居らっしゃるのである。

神万物を創りたまへり

あなた方が神を信じている事、また神を万物の創造主として受け入れてゐることを私は心から嬉しく思うものである。神はよろずの物、また私たちの住むこの地球もお造りになつた。その御仕事の過程として神は光と暗とを分け、空に光をお置きになつた。そして自らの御仕事をごらんになり、「よし」とお認めになつた。それから地に生命をお始めになり、まず植物を創造し、それが各々自らの種類にしたがつて、それと同じ形のもの繁殖させて行くべき誠命をお与えになつた。

そしてその御手の業を御自ら良しとお認めになり、次いで空の鳥と海の魚を創造なさつて、同じ様な役目、すなわちその種類に従つて子孫を殖して行く役目をお与えになり、その御業を再び御覧になつて、喜びたもうて良しとお認めになつた。それから、牛、馬、羊等、すべての獣をお創りになつ

て、各々に同じ繁殖の誠命を与え、総て良しとみそなわせたもうたのであつた。

さて、それからいよいよ人間創造の運びになるのであるが、これこそ創造の御業の最高の時であつた。何故それはかくも重要なものであつたか。その理由は、神はこの時御自身の子孫をこの世にお置きになるのであつたからである。神は御自分の種族を不朽のものならしめ、また、我々が神の子孫であり、そしてこの世へ遣わされてこの死すべき生命の経験を積むべき事等をよく御承知であつた。かくして神はこの世に我らをお置きになりそして人間は神の御像そのままに創られた事が記録されてゐるのである。何故か。我々は神の種族であり、その子であるからである。子がその親に似てゐるのはあたりまえのことではなからうか。神は御父に在し、我らはその子なのである。

殖えよとの誠命人に与えられる

この世の最初の人間が地上に置かれたが、その形は神の御姿そのままであつた。彼ら人間も自らの種類に従つて殖えるべきものであ

り、それは馬や羊や木、鳥、蜂、花等の場合と同じなのであった。

かくの如く、神は御自らの種族をこの世に置きたまい、その種類に従って殖えるべしとお命じになったのであった。何と奇しき御業ではないか。彼は我らが御父にして、我らはその子、その種族なのである。神はその御像の如く人を男と女とに造りたまひ、それを御眺めになつて、この度は「良し」とは云われず、「甚だ良し」と仰せになつたのであった。

それは偉大なる御業であつた。さて、しかし神はそれまでの創造の御業、すなわち動物や鳥や蜂や魚や植物の場合に見られなかつた新しい事をお与えになつたのであった。すなわち、それまでのものとは異つた種の故に異つた事が新しく与えられたのである。これは神の種族である。動物も鳥も蜂も等しく神の創造物であり、各々の種類に従つて殖える権利と力とを与えられた。

しかし神の種族たる人間の場合には、その繁殖の誠命の前に、別な新しい事をお与えになつたのであった。それは結婚であつた。神はその造りたもうた女を男の許に連

れ来り、与えたもうて、彼らは一体となり、女は男を助けるものとなつた聖なる婚いんによつて女を男に与えたもうた神は、二人の前にお立ちになり、その種に従つて神の種族を生み殖し、地を満たせよとの誠命をお与えになつたのである。

神聖なる性

主が馬や蜂や動物や花等、すべての生命をお造りになつた時、主はこれらすべてを雌雄にお造りになつた。人間創造に際しても、神は男女をお造りになつた。かくの如く、神は性を御創造になり、それを良しと宣わせられ、殊に人間の場合は甚だ良しと仰せになつたのであった。性はかくも聖く、また神から出たものであり、その故にこれを正しく用いたものは、創造に於いて神の協力者となるのである。この生命を生み出すという大いなる仕事に於て神の協力者となるのである。

この生命を生み出すという聖い使命を持った性はかくも神聖にして神はそれを高い地位にお置きになつたが故に、すべて正しい考えをする人々は性を神聖なものとし

て認めるのである。そしてそれは、我々各個人の中に見られる神のひらめきである。かくの如く聖い性は神の創造の御仕事の一部分となつていたのである。

この様に神聖な性なるが故に、神はその周囲に、それまでの如何なる創造物にもかつて見られなかつた程の大いなる守護者をお置きになつた。神は、この守護を与えるべき律法で性を囲みそして人間がその律法に背き、その守りを破つたならば、すべての罪の中でも最大の罪の一つを犯す事になるという事を明らかにしたもうた。最大の罪とは聖霊に対する罪であり、それは赦される事が無い。第二のものは無実の血を流す殺人の罪であり、これもまたこの世でも、次の世でも赦しは与えられないのである。さて聖霊に対する罪と殺人とに次ぐ大いなる罪こそこの性的な罪である。けれども主は或条件の下にこの罪に対する赦しを備えたもうていたのである。

破壊のためにサタンは性を用う

地球が造られ、アダムとイヴとがエデンの園に置かれた時にサタンはその姿を現わしたのであつ

た。サタンは大いなる敵であり、天国に於てさえも、彼は神とその御計画に反旗を翻して戦つたのであつた。そして神の御仕事を覆えそうと望んだのであつた。神の計画とその造りたもうたものを彼は破壊し去るうとし、かくして、世界には、万物の表裏が始められたのである。今日もすべての事に於て反対という事柄が見られる。甘きと苦き、光と暗、徳と惡徳等である。

神の御計画を挫折させんとするならば、その重要な場所に一撃を加えるべき事をサタンは知つていた。生命の創造とは、神の爲し遂げたもうた御業の中の最大のものであることを彼は心得ていた。神と、神に協力する者の他は、生命の創造は不可能である。生命の破壊を目指した彼はカインの許へとやつて来た。何をサタンはしたか。彼は甘言を弄してカインをたぶらかし、人殺しによつて利益を得ることが出来ると思わせた。ただ野に出て行つてアベルを殺しさえすればアベルの所有物のすべてが彼のものになるという考えがカインの心の中に吹き込まれたのであつた。

かくの如く利欲の望で彼を盲目とし、而して出て行きその兄弟を殺せと命じたのである。カインはその言葉に従ったが、その知り得た事は、人殺しをしても利益は得られないという事であった。すなわち、罪を犯して、得る事は何もないという事であった。のみならずその罪を犯す事により彼が手に入れる事が出来ると思ったすべの財産はその手の中に烏有に歸し、その富によつて得られる筈の満足にとつて代つたものは阿賁と胸もはり裂ける許りの苦しみであった。カインは今や最も惨めな者となり果てたのである。

何故サタンは性を強調するか

さてルシファはただ生命のみならず、生命の源をも滅そうとして神のこの聖なる創造物を汚そうとし始めたのであった。今日もお彼はそれに励み、自分の配下の世界に、性をば金の如くきらびやかに強調する事を命じているのである。試みに今日の世界をちよつと見てみれば、性が如何に強調されているかが判る。映画にも、雑誌にも、スタイルにも、ラジオ番組にも、そして会話の中にも満ち溢

れている。

性の強調の目的は何か。その本来の聖なる物としての王座を与へることではなく、それを泥の中にひきずり落し、安っぽい、つまらない遊び道具とする事である。時としてそれは金の如く輝いて見え、人の目に非常に好ましいものとして映るので、人々はそのためには何の労も惜しまない。これはすべて、カインに人殺しをして利益を得よとささやいた悪魔の頭の甘言によるのである。しかし、カインが兄弟を殺して得ると思つた富が灰となつてしまつた様に、それに誘われた人々にとつてもその金は灰となつてしまふのである。性の強調は何処にも見られ、多くのものはカインの如くそれに盲目となるのである。サタンは今や出で来りて、性に対するこの見方を「売りつけ」それが結局は墮落した者をその力の下に置き、そして神が初めに性を聖なるものとして造りたまひ、それを良しと仰せになられた、あのたいなる目的を破壊する事となるのである。

サタン、いかがわしき不謹慎を売る

サタンはそれではどうするか。彼はラッパを吹き鳴して華々しく現われては来ない。そのやり方は、ちょうど金の様に始めは見えはするが、結局は灰となつてしまふものを売りつけ様とする巧みなセールスマンの様である。彼はここに一寸、あそこに一寸と非常に徐々に現われて来る。

先ず彼は慎しみという事を攻撃し、人の心にある慎しみの心や標準を滅そうとするのである。彼はまず、人間の肉体をいろいろな程度に亘つて露出する事が全く正しいと人々に思い込ませようとする。人間の肉体が何か美しいものであるという考えを売りつける。美しいものであるからこそそれは鑑賞さるべきである。鑑賞のためには見なければならず、そして、それは見ればあなたの心をとらえてしまふものなのである。これがサタンの売込みの言葉である。この様に彼は不謹慎極まる海水着を売り出す。何故か。サタンは婦人が公衆の面前にその体を露わにする事を望むからである。

この段階を記憶されたい。身体は美しく、鑑賞さるべきものであり、そしてそれを見た時サタンは

全力を挙げて襲いかかつて来るのである。御婦人方、何故我々が慎しみ深い衣服を奨励するかがお判りか。何故慎しみ深く、体を覆つておく事をすすめ、生命そのものより重要なこの徳を守る事を説くかお判りであろうか。何故肩を露わしたイブニングを着る事がすてきではないのか、何もかくさない様な透き通つた材料のブラジャーやブラウスではないものを着なければならぬのかお判りであろうか。

不謹慎は不道德に通ず

肉体の神聖が性の神聖に連なっている以上、何故肉体をありふれたつまらないものとするのか。何故神の宮であるこの聖なるものを公衆の目にさらすのか。少女諸君、あなた方がダンスの時であるうと、どこであるうと自分の体を露わにする時、あなた方は非常に非常な不法行爲を爲しているのではありません、またボーイフレンドをも侮辱し、傷つけているのである。あなた方にちよつとカーテンの蔭に座つてもらえば、我々が青年たちと面会した時、男同志の間で話す彼らが衣服の慎しみ深さという事

についてどの様に感じているかが判るだろう。或者の話によれば、道徳的な墮落は、女の慎しみを欠いた衣服に始まるのである。彼らは、ダンスの時目に入るもの、正しく覆われていないものによって誘惑されるのである。

サタンはペッティングの後押しをする

サタンはそれを更に押進める。この慎しみの徳を破壊してから、サタンはこのペッティング（一種の愛撫行為）の如きものへと移る。このペッティングについてはつきり明らかに話してもかまわないでしょう。君たちは皆大人であるから、この事についての私の考えをはつきり話してみたいと思う。一人の美しい女の子が私の事務所を訪れてこう言った。「教会がペッティングについてどう考えているか私はお伺いしたいと思います」。「あなたはそれを自分でもしているのですか」と私は尋ねた。「はい、だからこの事を知りたいと思っていますのです。時々私たちはかなり烈しいペッティングをします」

もちろん私はこの烈しいペッテ

ィング（愛撫）とはどんな事か可成よく弁えていた。その時に一体どういう事をするのか、他の者が話してくれていたのだった。

ペッティングの時、どういふ事をするだろう。ネッキングやキッティング等もあるが、特にこの烈しいペッティングの時は相手に自分の体を露わにするのではないだろうか。ペッティングの時、愛らしき少女たちは男の子が自分の体に触れるままに任せ、そして時にはそれをすすめさえる。また時々少女は男の子の体にさわるのである。この様なことをしている時、その心に浮ぶのはどの様な考えだろうか。その時、「徳高き事、愛すべき事、良き聞えある事」等がその心にあるであろうか。

ペッティングはかんいんに到る

救い主は、多分山上の垂訓の時であると思うのであるが、次の様に仰せになった。「すべて色情を懷きて女を見るものは、既に心のうちかんいんしたるなり」。（マタイ五章二十八節）

この事をペッティングにあてはめて考えて見たまえ。また現代の啓示に於て主は仰せられた。

「婦女を見て情欲の念を起す者は信仰に背くなり。」「みたま」を与えられることなし。もし悔い改めずんば、捨てらるべし」。（教義と聖約四十二章二十三節）この事もペッティングと関連づけて考慮して見たまえ。烈しいペッティングを行う時、その心にある事は色情でなくして何であるう。「すべて色情を懷きて女を見るものは心のうち既にかんいんしたるなり」。救い主のこの言葉は、事実上性的な抱擁の事は仰せになつてはいないが、しかし「すべて色情を懷きて女を見るものは……」と仰せになつてゐる。女を見るのみならず、それに触る者は色情を抱いてはいないだろうか。もしそうであつたなら、彼は神の御言葉によれば、すでに心の中にかんいんを犯しているのである。

純潔は少しづつ失われる

ペッティングとは重大な事ではないだろうか。純潔の徳が少しづつ失なわれはしないだろうか。一時に一ドルづつお金を失うのだから。淑女諸君。自動車の後部座席に座つて男の子に体をさわらせ、また自分自身も相手にさわる

時、自らの操を失つて行くのではないだろうか。自分の結婚もしてない女の体にさわる権利を持つてゐる男があるうか。私は心から信ずる。この様な時純潔の徳が少しづつ失われて行くのである。若い人々が烈しいペッティングに身を委ねる時、彼らは自分の操と純潔の一部を失つて行くのである。それを完全に失うに到るのは行き着く所まで行つた後ではあるが、ペッティングではその純潔を一部づつ失つてゐるのである。

この救い主の御言葉「すべて色情を懷きて女を見るものは心の中に既にかんいんしたるなり」に照らして、他にこの解釈の仕様があるうか。少くともそれは貞操の部分的な損失ではなからうか。ペッティングは正にそれである。それは一段階ではあるが、貞操を完全に失う一歩手前の段階なのである。それを導びくものはサタンであり、彼は性が聖なるものであり、神から出たものなる事を知つてゐるのである。そして時と所とを問はず、それを汚そうとして、甘言を以てあなたの方の考えをあざむくとしてゐるのである。楽しい事をしてゐると自分では思つてはい

たが、後になつて、それどころか神の怒を己らの上に招き、殺人に次ぐ重い罪を犯した事を知つた若い男女の悲痛な告白をあなた方が聞いたならと思う。あなた方として、私の到達点は何か。神の子として、神の種族の一員として、あなたも私も、やがて神の様な者となるべき大いなる機会を待つてゐるのである。しかし、ただ、自らを証明し得た者のみがその所に行き着く事が出来るのである。何時か私もこの世のみならず、また来世に於ても、神に協力して私の子孫を殖して行く事が出来るだろう。もし私が忠実であるならば我子孫を不滅のものと爲し得るのである。

性的の罪を悔い改めよ

性的な罪は非常に恐ろしいものであり、私たちは及ぶ限りこれを避くべきではあるが、不幸にしてたまたま、この誘惑に陥る者があらうとも、私はこの望を与えるものである。すなわち、その人々が正しい事を爲せば、主は赦したまふという事である。これについて主の仰せになつた事を読んで見よう。

「汝ら誠心を以て妻を愛してこれと結び合うべし。その他の者に愛着することなかれ」。

「婦女を見て情欲の念を起す者は信仰に背くなり。」「みたま」を与えられることなし。もし悔い改めずんば、捨てらるべし」。

「汝ら姦淫することなかれ。姦淫をして悔い改めざる者は捨てらるべし」。(之は教会に關する限りは破門であり、主に關する限りは天国から逐い出されるという事である)。

「されど、姦淫をなしたる者誠心を以てこれを悔い改め再びなさざる時はこれを赦すべし」

「もしこれを再びする者は、赦さるることなくして捨てらるべきなり」(教義と聖約四十二章二十二節、二十六節)

また、聖書の中にも、この事に關するものとしてエゼキエル書の十八章がある。そこに書かれてある主の御言葉とは、罪を犯してもその罪を全く捨て、再び繰り返さないでそれより後主の誠命を守り従えば、その罪を決して二度と問われぬで彼は赦されるであらうという事である。この様にして、これは恐ろしい罪ではあるが神は

罪の赦しを備えたものである。しかし、その与えたもう大いなる警告とは、性とは聖なるものなるが故、今まで我々が身を清く保つて来たのならば、これからも、その様に身を持して行かねばならぬという事なのである。

高い栄に進む根本条件たる性

創造の業によつて神に協力し得るのは、ただこの性を通してのみである。彼は御父であるが、我々はその様にしてその子となつたのであるうか。またどの様にして、この世の両親の子供となつたのだろうか。あなた方は自分の母を尊び聖者の様に敬うであらう。どんなに崇める事か。特に母の日には世の偉人がその母について語つた言葉を考へて見たまえ。アブラハム・リンカーン曰く「我が今日あるはもろん、私の未来も、すべて我が天使の如き母の賜物なのである」と。

母たる事は神たる事に次ぐものであり、父たる事もまた同じである。しかし性を用いる事は神御自ら定めたもうた制限の下に置かねばならない。生めよ殖えよとの誠命を与える前に神は先ず聖なる結

婚によつてイヴをアダムにお与えになつたのであつた。神から生め殖せとの誠命は与えられたのである。性の使用という事は神によつて命ぜられたものではあるが、しかしそれはただ、合法的な結婚にのみ許されるのである。そして正しく神殿で結婚する時ちょうど我々が神の子として生れたのと同じく、永遠の来世に於ても、我々は永遠の靈の親となり得るのである。性とはかくも神聖なるものであり、それなくして、目の榮まで高く進む事はあり得ないのである。

我々が真実にして徳高からん事を心から私は祈るものである。教會の指導者は述べてゐる//自分の子供達が汚れた生活を送るのを見るよりはむしろ、かれらが死んで墓に横つてゐるのを見た方がよいと。貞操とは生命より大切なものである。生命以上にこれを守らね事を。この二つの何れかをとらねばならない時が来たとしたならば、生命を犠牲としなさい。どんな事があるうとも自分の貞操を犠牲としてはならない。あなた方がこの事を行う様イエスの御名によつてお祈り致します。アーメン。

系 図 の ペ ー ジ

西中央地方部大会に参加して

渡 部 正 雄

が神殿の仕事の備えである系図の探求を重視

される理解ある伝道部長の御発言により私は

○：本年初頭より西宮支部系図委員会々長植村茂夫兄弟からは是非春の地方部大会に出席してもらい度いとの要請があり、後にブロック地方部長を通じての正式の申出でにより、伝道部長の許可を得て、四月十一、十二日の両日に亘って三宮で開かれた大会に出席する機会を得、神権会及び一般大会に於て系図の重要性に就て述べ又指導者会に於て支部系図委員会の組織活動及び会員一人々々の探求義務に就て強調することが出来た事は誠に大いなる、天父の御恵みであると共に各支部系図委員の熱意と伝道部長の御理解によるものと深く感謝致す次第であります。

○：プログラム上に於ては私は指導者会に於てのみ話す時間を与えられていたのです

突然機会を与えられ神権会に於ては、ジョセフ・フィールディング・スミス系図協会の言葉「教会は補助組織なくしても成立するが神権なくしては成立しない、而して系図は神権の一部である」を引用し、更にワード部に於ては通常系図委員長は大祭司、第一副会長は七十人、第二副会長は長老の神権者を以て組織され、委員の数は最少限十六名とされているのを見ても如何に系図が重視されているかに就て述べ、一般大会に於ては予言者ジョセフ・スミスを始め歴代大管長及び使徒たちの系図に就てのメッセージ及び教義と聖約からの系図の探求に就ての誠命（教義と聖約一二七・九一二八・二四）に就て述べ、特に先月号掲載のジョセフ・フィールディング・スミス

長老の全教会員に対する系図探求開始のメッセージに就て強調しました。

○：先に植村兄弟から手紙で、昼休みか早朝を利用して特に系図委員たちの為に集会を持ちたいと申出であり、私はその熱意にほんちに嬉しく喜んでお引受けしたのですが昼休みに熱心な西宮、金沢支部委員方を交え、又阿部野支部の周藤兄弟も列席して下さり質疑応答の集会を持ったのですが、各委員方の深き研鑽追求に私も充分な解答の出来なかったのを恥かしく思った次第ですが、燃ゆるが如き熱情と信仰を持った皆さんの希望により更にこの会を指導者会後の夜に延長することになり私は只々嬉しく、感謝感激の喜びで胸がいっぱいになったのでした。指導者会後私共は雨の中を西宮支部の宣教師宅に参り夜の十時近く迄、主の「みたま」に見守られながら熱心に系図探求に就て研究し合ったことはほんとに生涯忘れることの出来ない喜びでありました。この会に参加して下さった方々は西宮支

部系図委員会の植村兄弟安芸兄弟姉妹、永井姉妹金沢支部系図委員会の川田兄弟堀姉妹中橋姉妹、又系図委員ではないけれど系図に強い関心を持って居られる名古屋支部の上田姉妹でありました。

○：又この大会で私が持つて参りました系図のテキスト日本系図探求要覧(邦文、英文)家督権の祝福、記念の書のカバーが全部売切れ、系図、家族の記録等の用紙が邦文、英文とも殆ど売切れて不足するという熱意には、只々感謝の外はなく私の帰途の手荷物の軽くなったことをも併せて感謝致しました。

この意義深い最後の集会を終えて私は感激の胸をおさえて大阪発十一時半の夜行に乗ったのですが安芸兄弟には夜遅く新妻を家に残されわざ／＼遠路駅頭迄送り下され改札口で一度お別れしたのですが私がホームに入って始めてひもじさを覚え、今日一日、続く集会に殆ど食事しなかったことに気づいて何か買おうかと捜しているとき安芸兄弟が急いで戻って来られ「渡部兄弟が食事をとらなかつたことに気がついたのでとんで来ました」と言つて私の好物のドーナツと蜜柑を下さつた。私はこの深き兄

弟愛に胸のつまる感じがしました。やがて汽車が出ました。私はこの私の生命の糧である食物を天父と安芸兄弟に感謝していたゞきながら、食事するひまもなかつた感激と喜びの今日一日を静かにふりかへつた時次の聖句が頭に浮びました。

「われを遣し給へる者の御意を行い、その

神殿献堂式の祈禱

ソルト・レーク神殿 (四)

ウィルフォード・ウッドラフ大管長

さて我らは汝の民の子供なるシオンの若人たちの為に祈り奉る。

信仰と義のみたまを以て、又汝と汝の律法に対し深められる愛を以て彼等の天性を豊かに富ましめたまわんことを。彼等の善導の為我等の内に創設されたすべての教育施設を繁榮させ給わんことを、教会の学校に無限に増大する善の為の能力を与え給わんことを、聖なるみたまが、ここにてほと

こさる教育を支配するよう又学生たちの心を治め啓発するよう、汝の僕たち、教育中央管理委員会々長及び各学校長たち教師た

御業をなし遂ぐるは是わが食物なり」
「それ神の国は飲食にあらず、義と平和と聖霊によれる歡喜とに在るなり」

この素晴らしい大会に出席出来た喜びと感謝の涙にむせびながら西中央地方各支部系図活動の発展を祈つて眠に就きました。

ち及び他の職員たち又更に教育中央管理委員会を構成する会員たちをも又すばらしく祝福し給わんことを、同様に汝の慈愛の内に日曜

学校を、その教師又は學者を憶え給い、其処にてほどこさる教育が完成の日に至る迄の汝の榮光及び汝の子供たちの救いに広く深く作用するものなるよう又デゼレト日曜学校連合中央管理委員会の会員たちを彼等の義務を適正に成就する為に又その創設の目的を完成する為に必要な智慧を以て祝福し給わんことを祈り奉る。

我々は中央及び地方のすべての職員並に会員を擁する男子及び女子の相互發達協會を汝の御前に支持す。彼等が汝のものとして繁榮するよう、その会員数が増加し、彼等の業績

が年々増大して行くように祈り奉る。

初等協会や宗教学校にも又不斷の祝福と、周到なる導きを授け給わんことを、その会長及び協力する職員及び教師たちの上に教授のみたまをふり注ぎ給わんことを、彼等が汝の教会の他の教育施設と歩調を合せて、我々の子供たちがその幼少の頃より、勤勉に主の道に伴わらう、そして徳と智慧に進歩する彼等の成長の中に汝の名が顕されるよう乞い奉る。

おゝ主よ、我々は教会の学校、相互發達協会又は日曜学校の何れに關してゐるにせよ汝の民の間に於ける正規の講習会をも忘れ得ず、これ等の会が単に秀れた知識を所有するのみならず福音のみたまに充たされ汝の眞実なるを証しすることに於て又教える者の心に汝と汝の仕事に対する愛を植へつくることに於て強力なる教師を養成することにより聖徒たちの住む全地域を通じて眞の教育を普及する手段となることを許し給え。

おゝ主よ、我々は扶助協会をそのすべての会員及びその中に在りて中央、地方を通じて、それ／＼の召しに應じ管理するすべての者たちと共に汝の御前に差出さんとす。

その教師たちの慈愛の働きを、祝福し給え、

彼等は導きと恵みをほどこす天使の如く疾病者又は貧者の家庭を訪問し、不幸なる者、悲歎に暮るゝ者に救援と慰安を与うる者なればなり、最も慈悲深き父よ。汝の民の貧しき者を祝福し給え、汝が此の世の慰品を以てかくも豊かに祝福せる聖徒たちの間より汝に向いて彼等の要求の叫びが放たることなきようなさしめ給え。貧しき者が誠実なる勤勉さを以てその生活費を得らるゝ新しき道を開き給え、而して又より豊かに祝福されたる者の心を傾け、彼等の財物を氣前よく恵まれざる者に分ち与えしむるよう、そして我々が汝の誓約の民の一人をも無視したることによつて汝の叱責を受けることなきようなさしめ給え。

イスラエルの神よ、我々は汝に向ひ汝がその顔を打ちひしがれたるユダヤ家の民に向ひ給わんことを祈り奉る。彼等を圧制者の手より解放し給え。彼等の傷を癒しその心を慰め、彼等の足を強め、昔日に於て汝の道に従い彼等を導けるが如く、汝の御旨にかないたる指導者を彼等に与え給え、彼等の試練の日が速かに止み、汝によつて彼等の昔の郷土なる谷間と広原に定着し得るよう、而してエルサレムは喜び、ユダヤはその息子女子たちの

多勢の故に歡呼の声を上げ、その街道は子供たちの甘き声に溢れ、汝の救いの恵みが豊かに彼等の上に注がれ給わんことを、イスラエルの民が再び圧制者の前にその顔を下げ首を垂れることなきよう、然のみならず、彼の足が永遠の岡に強く立つよう、更に其処より狂暴が追放され、讚美と榮光が汝のものなるようなさしめ給え。

同様に哀れなるイスラエル家の少数の残存者汝の僕、リーハイの子孫をも憶え給え、汝の昔の愛の内に彼等を回復し、彼等の完成の内に彼等の先祖に与え給ひし約束を成就し給え、斯くて彼等を昔日の如く白色の明朗なる好ましき聖なる民となさしめ給え、汝が散らせられたるイスラエルの民を海の島々より、又汝が追い散らしたるすべての地より、集むる日の近からんよう、又ヤコブの十支族が北方の隠れたる場所より出で来たり、その親類なるアブラハムの種族との親交を回復し給わんことを祈り奉る。

未完

(四月末現在)

新宣教師到着

◎K・バリー・エリス長老及びアンドレイ・ステヴンス姉妹（ユタ州オグデン）は四月

三十一日來朝

◎ダビド・マロ長老（ロスアンゼルス）は四月六日来朝

支部長更任

ゲイリー・V・スミス長老

新潟支部長
ジェリー・T・ステール長老

宣教師異動

K・バーリイ・エリス長老

アンドレイ・ステヴンス 韓国へ姉妹

本部へ
ネッド・L・クリステンセン

長老 巡回長老に
ダビド・マロ長老 西宮へ

解任

左記二人の宜教師は任期満了

し、四月八日解任さる

ロバート・グッドマン長老
デー・M・アンダーセン長老

神權授与

バプテスマ

外に韓国にて執事二、教師一

長教教教教教長長教
老師・師師師師老師老師
堀田中佐佐杉津坂佐谷
田村野藤本端井原上
秀利公克了邦
司利雅彦己治圭正彦
〃〃〃〃〃〃〃東京東京

東京北
東京南

木田
本中
映科
子代

岡岡
山町

三 富
札 幌

// //

// //



“子東

東京西

// //

田中 永村吉伊関江藤稲ブ 金清白小多砂諸中中永高安野鈴三村藤岡木田
中 山尾野藤口方川垣フ 沢水石見田子橋川西野野遠尻木好上井田本中
偉 靖富 悟時彦郎正聖ミ 巖誠雄紀子博人昭忠芳悦尙正喜邦礼須美江弘映科
夫 征六 郎彦郎浩子 ュ ク 誠雄子博人昭忠芳悦尙正喜邦礼須美江弘映科

田永
中山
偉靖
夫征

// //

若き末日聖徒の為の

モルモン経物語

(二二〇)

エマ・マー・ピーターソン 著
渡部 正雄 訳

第六十一章 内部に於ける謀叛

(アルマ第六十章―第六十二章)

レーマン人と戦っている時、ニーファイ人の軍隊は彼らの町ゼラヘムラ市から遠く離れていました。彼らの食糧その他の供給がなされていたのはこの町からでありました。

司令官モロナイはその軍隊が食糧の不足を来たしているのに気がつきました。彼は食糧の供給その他の援助を求め、ため人を派遣しました。けれども誰も来ませんでしたのでモロナイは怒りました。彼は高等判事ペーホーランに食糧を与えてくれなくては戦争が続ける事が出来ないと言って更に与えてくれるように書き送りました。モロナイは、直

ちに与えてくれなかったら部下を率いて戻り、ペーホーランその他の者を与えることを怠った罪により罰するであろうと言いました。

ペーホーランは悪いニュースを以て答えて来ました。ニーファイ軍の主力がレーマン軍と戦っている間にゼラヘムラ市で一味の者が謀叛を起した事でした。彼らは政府を覆えそうとしました。

ペーホーランは、市内の多くの者を煽動してその一味を強化しているこれら謀叛者を征服することが出来ませんでした。彼らは一味の内の指導者の一人を王に指名してペーホーランとその部下を市外に追放し自分ら自身で治めました。この王はペーカスと言いました。彼は市を占領した時、人を

レーマン王に派遣してレーマン人が国の残りの地を支配出来るよう援けるために連合軍を組織しようと申出ました。

ペホーランは手紙を以て、モロナイに、彼が必要としている食糧を与えることをじゃましているこれら謀叛者を打破するためニーファイ軍の一部をゼラヘムラ市に戻すように頼みました。彼はモロナイに、テアンクムとリーハイをレーマン人との戦争に残して置いて謀叛を鎮めるために戻って来るように頼みました。

モロナイはペホーランから手紙を受取った時悪いニュースが書かれてあるにもかかわらず喜びました。彼はペホーラン自身も謀叛者の仲間入りをするのではないかと恐れていたのですが今や彼は、高等判事は忠実であり真実であることを知りました。彼はニーファイ軍の司令官の職をリーハイとテアンクムにゆづって自ら少数の兵を伴ってゼラヘムラ市に向いました。途中で彼は他のニーファイ人の町々に寄り彼の目標である自由の旗を掲げ自由の為に彼を援けるべくより多くの兵士を募る事が出来ました。

ペーカスがペホーランをゼラヘムラ市から追放した時ペホーランはギデオオン市に逃避して居りました。モロナイは彼の新しい軍勢を率いてこの町に入り其処でペホーランの軍隊と合流しました。そこで彼らはペーカスとその一味の謀叛者をこらしめるべくゼラヘムラ市を再び占領する決心をして進軍しました。

ペーカスとその一味の者は彼を迎え撃ち、戦争が始まりこの戦でペーカス及び多くの彼の一味の者が殺されました。また生き残った者たちはモロナイによって捕虜にされました。モロナイは市内に進駐して政治の権能をペホーランに取戻してやりました。

捕虜となったペーカスの一味に対し裁判が開かれ彼らは皆謀叛者として死刑を宣告されました。

モロナイは直ちに遠くでレーマン人と戦っている友軍に必要な食糧その他を送るため供給車をつくりました。彼は更に多くの募兵をして六千の兵をヒラマンに送り彼と二千の息子たちを強めました。彼はまた他の六千の兵をして多くの食糧をもたしてリーハイとテアンクムの許に遣わしました。戦争中に降服した多くのレーマン人たちはモロナイにジェルションの地に行つて二度と戦わないと誓ったアンモンの民と一緒にさせてくれるように頼みました。彼らはアンモンの民と一体になりたいと申出ました。

モロナイはこの願いを聞入れました。けれども彼は彼らに命じてニーファイ軍に食糧を与えるために畑を耕させました。

第六十二章 テアンクムは殺された

(アマル書第六十二章)

テアンクムはニーファイ軍の中で最も偉大な軍人の一人でありました。彼とモロナイと、リーハイはニーファイ軍

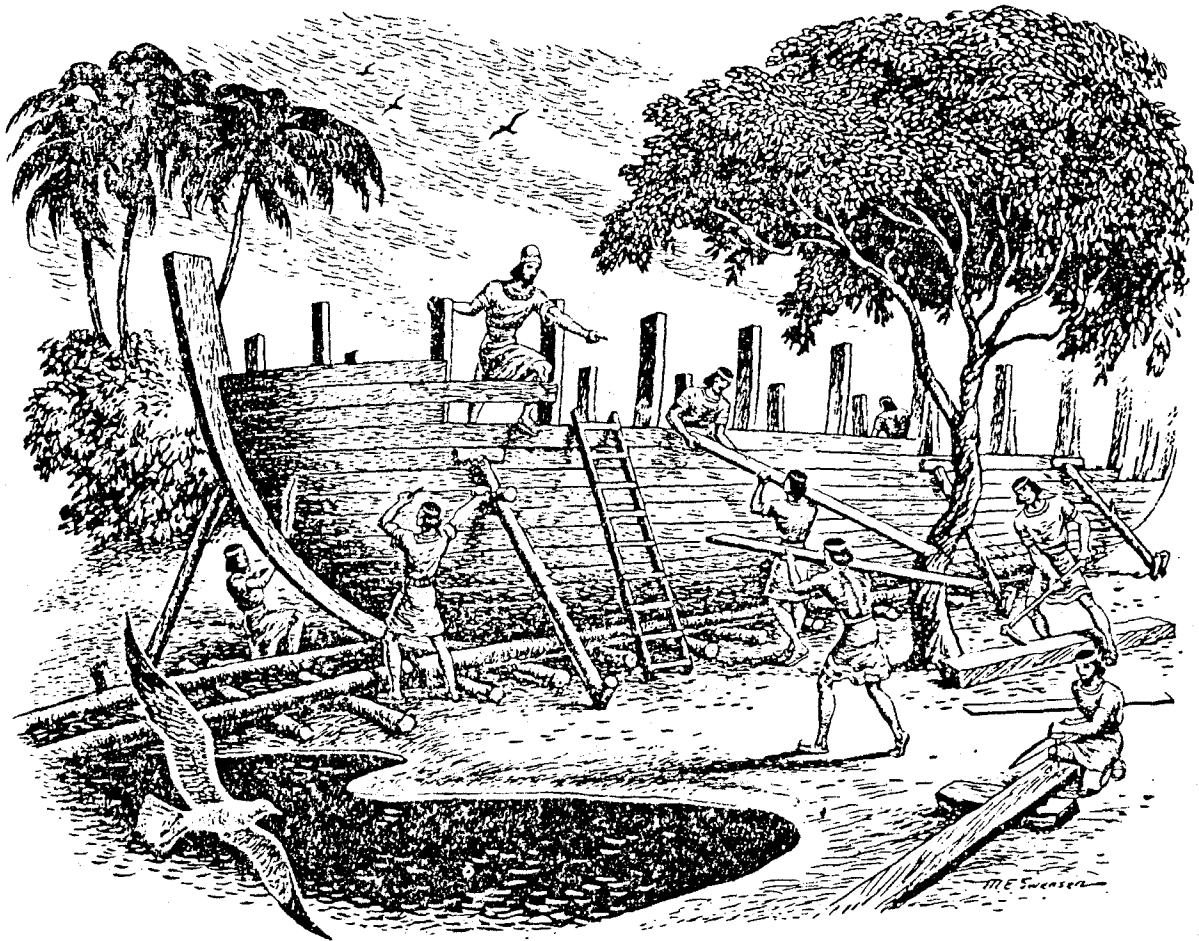
の三人の將軍でありました。

テアンクムは経費のかゝるレーマン人との戦争を終らせようと希望しました。彼はアマリカヤとその兄弟アモロンを戦争全体の責任者として非難しました。

これら二人の者はニーファイ人でありましたがレーマン人の方に行ってしまったのでした。アマリカヤはニーファイ人の王になりたいと思ったので、敵に走り彼等に謀叛を起させたのでした。後に彼はレーマン王を殺しその代りに自分が王となったのでした。そしてニーファイ人と戦争を始めたのでした。

テアンクムは戦場に於てアマリカヤと会い夜中にレーマン人の天幕に入つて彼が寝ている間に殺してしまふたのでした。けれどもそれは戦争の終りとはなりませんでした。何故ならアマリカヤの兄弟のアモロンが彼の代りに王となりその兄弟の前王より更に烈しく抵抗したからであります。

テアンクムは若しアモロンを殺したらレーマン人は戦いを断念するであろうと思ひました。アモロンは彼の兄弟である前王の復しゅうのために戦っているのです。



HAGOTH BUILDS A LARGE SHIP.

ハゴツ船を造る

レーマン人たちは占領した一の城壁のある市内に宿営して居りました。アモロン王は彼らと共に居りました。

テアンクムはその兄弟アマリカヤを殺したと同じようにアモロンが寝ている間に殺してしまおうと決心しました。

夜遅くすべての人が寝静まってから彼は長い綱を持って城壁の頂上によじ登りました。彼は綱の端を壁にむすびつけ、自分自身を城壁内につり下ろしました。彼は何処に王の天幕があるのかわかりませんでしたのでこっそりとあちらこちら歩き廻ってついに発見しました。中に入った時は王およびその護衛兵が深い眠りに陥っているのを発見しました。彼は眠っている王の心臓に投槍を投げて直ちに殺してしまおうとしました。けれども彼のねらいは、はずれて胸に当り心臓にささりませんでした。王は目をさまして死ぬ前に彼の護衛兵を起こしました。護衛兵はこの勇敢なニーファイ人を追いかけて城壁の綱に届かない内に追いついて殺してしまいました。

モロナイとリーハイはその事を聞いて大変悲しみました。彼らはテアンクムを愛しました。彼は国の為によく戦い自由の真の友でありました。彼はまたその民によく仕えました。

ニーファイ人たちはテアンクムによって提案された有利な条件に従うように決議しました、導く王も失ったレーマン人を打破ることはたやすいことでしょう。

モロナイとリーハイはその軍隊に翌早朝レーマン軍を攻撃するように命令し彼らが数年間に亘って二度と攻めて来ることがない迄に完全に打破りました。ニーファイ軍は家に帰ることが出来、全国に平和が訪れました。ヒラマンはまた説教の仕事に戻って町から町へと福音を説き歩きました。この戦いにより非常な損害を受けたニーファイ人たちは大変へりくだるようになりました。彼らは主なる神さまに仕え主なる神さまは彼らを祝福し彼らは再び榮えました。

第六十三章 北方の地

(アルマ第六十三章 七ラマン第三章)

アメリカはニーファイ人に知られているように、北と南の二つの地方に分かれて居ります。そして二つの地方は、細首の地〃によって連結されて居ります。

リーハイの民は最初〃南方の地〃に定住しました。大きな国内戦で滅亡したジェレドの民は〃北方の地〃に住んで居りました。リムハイ王の探偵が彼らの記録を発見したのも其処でした。

長い戦争が終つてニーファイ人たちは再び平和を楽しみ始めると彼らの或者たちは〃北方の地〃に移住しようと決議しました。最初はほんの少しの人が行きましたが後に多くの人々が彼らに従いました。一行の内には妻子をも加えて五千四百人もの大世帯をなしているものもありました。彼らは皆ゼラヘムラの地を去つて北方の地に行きました。

この新しい地方への移住に最も強い関心を持っていた一人にハゴツと云う人が居ました。彼は非常に珍らしい人でまた船造りでありました。彼は人々は土地を行くより船で行く方がもっと容易に地方に行けるであろうと信じどんなニーフアイ人でも若し希望するなら海岸づたいに細首の地を通過して北方の地の或港に入ってその地を住家とする事が出来るよう船を造ろうと決心しました。

細首の地よりあまり遠くないバウンテフルの地の近くの海岸に彼は大きな船を造りました。

船が出来上がった時多くのニーフアイ人たちがその船に乗って北方に行こうと望みました。彼らは妻子を伴い食糧を携えてハゴツの船に乗り航海の途に着きました。

翌年船が戻って来ました。更に多くの人々が北方に航行しようと、食糧を携え家族を伴って最初の航行した人々が行ったと同じ地方の地に行こうとして航海の途に着きました。けれども船は、目ざす地には着きませんでした。彼らがハゴツの船に乗ってバウンテフルの地を去った後の消息に就て誰も何も聞きませんでした。ニーフアイ人たちは船は、すべての船客もろともに海に沈んだに違いないと思いました。

他の船が船客を乗せて北方に向って旅立ちました。けれどもこの船に就てもまた何の消息もありませんでした。

この事は民を失望させることなく更にまた北方の地に移住して行きました。

アメリカの西海岸バウンテフルの近くから太平洋に流れ

る潮流がありました。この潮流は遠くまで流れハワイ及び南方の小さな島々に迄達して居りました。

ハワイ人ニーフアイランド人サモア人およびその他の島の住民には、彼らの先祖は遙か東方から来た。そして白人であつたと言ひ伝えるがあります。或ニーフアイ人またはレーマン人が船でアメリカ海岸から漂流しこの潮流に運ばれて南海の島々に達し定着した事が信じられます。

現在の船員達がボートまたは筏に乗ってアメリカ海岸から直接この南海の島々に航行するのであります。

この平和な北方移民が行われている間にもモロナイ将軍も予言者ヒラマンも共に死にました。ヒマランの息子で同じくヒラマンと名づけられた人が神聖な記録を受取って彼の父親の仕事を引きつぎました。彼も義人でニーフアイ人の間で偉大な予言者となりました。

若いヒラマンの時代に更に多くの人々が細首の地を通って北方の地に向ひそこに町を建て農場をつくりました。

北方には木が非常に少なかったので人々は彼らの家を建てるのに木以外の資材を探し求めねばなりません。或時は石で建てましたが多くはセメントによって造りました。この昔の民はセメント技術を習得して居りそして家だけでなく他の目的の為大きな建築物を造りました。その内の或物は、今日、中米及びメキシコに於て発見されて居ります。彼らは高いピラミットの頂上に神殿を建てました。

多くの人々が北方に行き始めました。かつてレーマン人でありアンモンとその兄弟たちによって改宗されたアンモンの民さえも移住熱にかられて多くの者が彼らの故郷であるジェルシヨンの地を離れて北方に移住しました。

リチャーズ副管長逝去さる



五月二十日、水曜日。大管長会第一副管長ステイヴン・L・リチャーズ長老が五月十九日、火曜日に逝去されたとの報が受領された。

リチャーズ長老は今月で八十才である。

支部所在地

阿部野	大阪市東住吉区田辺東町 7ノ2
旭川	旭川市八条5丁目
福岡	福岡市菜院大通 2ノ55
群馬	高崎市並榎町 275
広島	広島市古田町古江 400ノ3
金沢	金沢市成瀬町11ノ4 野田方
甲府	甲府市富士見町 1
松本	松本市沢村 1604
室蘭	室蘭市幸町 89
名古屋	名古屋市昭和区北山町3ノ41
新潟	新潟市中大畑町 557 金井方
西ノ宮	兵庫県西ノ宮市田代町 111
岡町	大阪府豊中市岡町北2ノ18
岡山	岡山市国富 1ノ119 丹下方
小樽	小樽市富岡町 1ノ35
三ノ宮	神戸市灘区篠原本町 4ノ35
札幌	札幌市北二条西24丁目
仙台	仙台市光禅寺通り28
東京中央	東京都渋谷区八幡通 1ノ34
東京北	東京都豊島区椎名町 4ノ2068
東京南	東京都大田区南千束町 249
東京西	東京都武蔵野市吉祥寺 368
山形	山形市諏訪町 397
柳井	山口県柳井市今市 391
横浜	横浜市港北区篠原町 29
普天間	沖縄宜野湾村野嵩区 328
那覇	沖縄那覇市松尾区 1ノ3ノ9

編集言

- …本号の「伝道部長メッセージ」はその内容をよく玩味して頂きたい。すなわち「隣人愛に徹する」とは何を意味するか？
- …十二使徒会会員ピーターソン兄弟姉妹の来朝によって、日本における教会堂建設計画は著しく前進されたことを痛感する。
- …それにしても、日本における会員たちはもつと本気になって、建築資金のための献金と獲得計画に挺身しなくてはなるまい。
- …教会は日に日に成長する。それは我々会員が結束して主の宮居建築に邁進することによって、一層強められる。
- …今やモルモンの活動は各方面に注目されて来た。今年の計画は会員倍增の実践と建築資金獲得の目標達成が、私達に課せられていることを再反省致しましょう。

月刊「聖徒の道」第三巻第六号

一九五九年六月一日発行

(定価) 一ヶ年三百円 一部三十円

編集兼 ポール・C・アンドラス

発行人 東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエス・キリスト教会

北部極東伝道部

內 案 書 圖

教義と聖約	高価なる真珠	合本	一〇〇円
モルモン経	教義と聖約	合本	一〇〇円
高価なる真珠	モルモン経	合本	一〇〇円
モルモン経（新訳）	高価なる真珠	合本	一〇〇円
新旧約聖書（口語体・文語体）	モルモン経（新訳）	合本	一〇〇円
完成への道	新旧約聖書（口語体・文語体）	合本	一〇〇円
初等協会教科書	完成への道	合本	一〇〇円
総合聖句の手引	初等協会教科書	合本	一〇〇円
日本系図探究要欄	総合聖句の手引	合本	一〇〇円
聖典中の指導者	日本系図探究要欄	合本	一〇〇円
家督権の祝福	聖典中の指導者	合本	一〇〇円
扶助協会手引	家督権の祝福	合本	一〇〇円

日曜学校用

福音と生活	一〇〇円
古代アメリカの生活	一〇〇円
旧約聖書物語	一五〇円
教義と聖約の教え	一五〇円

MI 用

役員指導書の手引……………	一〇〇円
モルモンとは？……………	一〇〇円
演劇指導者基礎知識と脚本集……………	七五円
演説が上手になる法……………	一五〇円
社交ダンス必携……………	一六〇円
新しいフオークダンス……………	五〇円

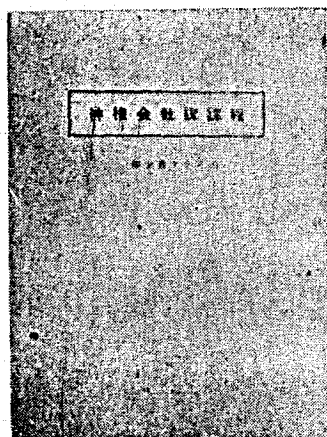
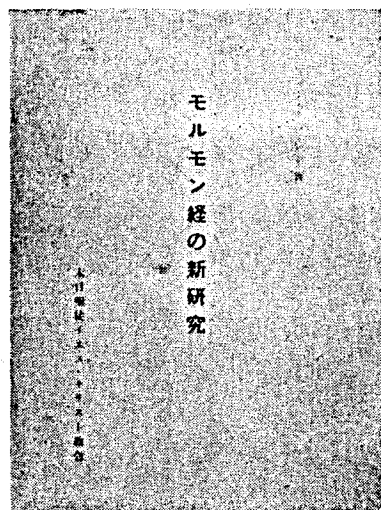
讚美歌及び歌集

末日聖徒讚美歌……………	三〇〇円
末日聖徒讚美歌拔萃……………	三〇〇円
子等は歌う……………	一〇〇円
レクリエーション歌集……………	四〇〇円

神権会用テキスト

最近の考古学上の発見は、モルモン経が真正確実な聖典であることを強く裏書きしている。著者は考古学上の事実に基いてモルモン経の新しい研究を行い、モルモン経の中にある諸々の記録が真正の歴史的事実であることを証明している。極めて興味深い専門の研究書である。

150 円



末の日に回復されたイエス・キリストの福音を系統的に説き明した書、神権会の年少者用テキストではあるが年長者や婦女子にも内容は極めて興味のあるもの。

100 円

系図テキスト

予言者ジョセフ・スミスは我々は系図を探求し神殿を建て、先祖の為に儀式を執行することによりシオン山の救い手となると言われた。本書は系図協会総書記ベネット長老が我々がシオン山の救い手となる道を具体的に詳述せるもので全会員必読の書である。

100 円

